

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケート」（学科A日の全体96名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「資格取得」が1%、「関心」が2.1%「単位数確保」が6.3%「GPAアップ」が4.2%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「35.41.22.」で96.08%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「3.1」で3.92%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与え、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には看護と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績を見ると、平均値は80.62点であり、再試験対象はなかった。分布的には、90点以上が16.67%、89～80点が35.29%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は51.96%であり、79～70点が40.02%、69～60点が7.84%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは47.86%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。②102名の学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「27.45.27」と「27.42.28」で97.06%と95.10%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)いずれも「3.0」で2.94%であった。③専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「11.30.54」と「11.30.52」で93.14%と91.18%であったのに対し、否定的回答は「5.0」と「7.1」で4.90%と7.84%となった。④専門分野でも＜意欲＞に関し肯定的回答は「13.37.45」で93.14%であり、否定的回答は「6.1」で6.86%であった。⑤さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「10.32.48」「10.30.52」で88.24%と90.20%であったのに対し、否定的回答は「11.1」と「8.2」で11.76%と9.80%であった。⑥学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「11.39.45」で93.14%であったのに対して否定的回答は「6.1」で6.86%であった。⑦＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「8.21.54」で81.37%であったのに対し、否定的回答は「13.5」で17.65%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では2%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ4.90%と7.84%、＜意欲＞も6.86%であり、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では11.76%、9.80%であり、＜倫理・規範＞に関しては6.86%であった。②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が前者2つは2%台、そして残りが6%台であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はそれぞれ4%台、7%台、6%台であり10%未満に留まった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野でも90%前後であり、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は4件あり、初めてキリスト教を学んだと思う学生からの「新鮮で面白かった」というもの、また、すでに学んでいる学生からは「旧約聖書の理解が更に深まり、更に強く興味を抱くことができました」との感想があった反面、学生への指導の方法について「個人のひとと集団では平等ではないと思う」という意見、さらに聖書内容の「アニメ等」の鑑賞の希望があった。聖書関係のアニメはYouTubeで鑑賞できることを紹介し、できるだけその他の要望にも真意をくみ対応したい。学習量につき、16人が取組んだ学習内容を挙げ、22人の学生が取組まない理由につき、「授業で理解できた」(2)、「時間がなかった、他の科目で追われた」(7)、「必要がないと思った」(4)、「何をすれば良いか取り組み方が分からない、することがない」(7)という学生が多かった。第1回目授業から配布している「自己学習記録」に毎週の「復習の読書テキスト・予習の読書テキストとその時間」を記載する枠を設け奨励したが、学生の記憶に留まらない結果となり奨励が不十分であった。② 学習量の評価を見ると、<1回30分以上の予復習>6回を18人が実践し、1回以上は53.92%で約半数であった。③ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「39,31,26」で94.12%であった。<理解しやすい>という項目では、「14,41,36」で89.22%であった。ただ否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「7,4」で10.78%と1割強であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「19,33,42」で、否定的回答は「8,0」であった。<参加の機会>では肯定的回答が「14,24,49」で85.29%であり、否定的回答が「14,1」で14.71%と数字が大きかった。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1) レジメの配布、2) 予復習の方法の明確な指示、3) 毎授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオーブンにして理解の共有化を図る工夫をする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員への肯定的な意見は、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、<6. 授業の進め方とその向上について>の④に記載した改善策に取り組む工夫をする。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
宗教と人間	2	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機としては「単位数を確保する」が60%であるが、「GPAをあげる」と「友人が履修している」がともに20%で、動機は概して高いと言える。看護学科の受講生は、2年生以上であるが、キリスト教以外の宗教に関する知識や理解は概してないのが現実である。そこで、宗教が人間にもたらす豊かさを説明し、宗教を学ぶ意義を明らかにした後で、日本における代表的な宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教を時代順に説明し、その上で、イスラム教を取り上げることとした。 ② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講生が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを取り入れ、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。 ③ クラス自体は24人の構成であったので、関心をもてるように折々に対話形式とし質問を引き出し答える形で進行することにした。 ④ 身近な学習となるように中間的まとめとして、宗教の映像を用い、それまで学んだことと実際の生活とがどのように結びつくかを自ら考え確認することができるように計画した。 ⑤ 期末試験では、その準備の過程で、受講生が宗教に関して知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を見ると、平均値は90.33点であり、再試験対象は0名であった。分布的には90点以上が2名、89～80点が4名で理想的レベル(概ね80点以上)に達した。これは、受講生が24名という構成であったことから、知識習得と理解の可否を出来るだけ口頭で確認し、質問に答える時も全員が知識を確認し理解を深める工夫を心掛け、学生も関心を持って授業を受け、十分な準備をして試験に臨むことができたことの結果であると評価できよう。 ② 学生の到達度自己評価を見ると、＜知識習得＞＜専門分野での課題を検討する力＞＜専門分野で的確に判断する力＞＜意欲＞＜職業選択の参考になった＞に関する事項では「かなり」「わりに」「まあまあそうだと思う」の順に「1,3,2」とあり、＜理解＞＜専門分野での技術＞の事項でも「2,2,2」で、いずれも100%の肯定的な回答であった。しかし、＜コミュニケーションと表現力＞に関する事項では「少しそうでない」と否定的回答をした学生が1名おり、＜規範習得＞の事項でも無回答の学生が1名いた。この両事項とも肯定的回答が「1,3,1」と83.33%であった。全体としては、＜自分なりの目標を達成した＞という事項には、「1,2,3」と数字にあるように100%の学生が肯定的に回答している。 ③以上、各自の目標達成状況を見ると、全体的に達成されていると言えよう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、否定的回答は＜コミュニケーションと表現力＞の事項で1名が「少しそうでない」と回答したに留まった。学生が授業のすべての事項について肯定的に受け止めることは、無批判な態度にもなる危険がある。その点、学生の回答から見てくることは、「若者の宗教離れ」という現代に、神道、仏教、キリスト教、イスラム教という日常的にそれほど接触しない様々な宗教を21世紀の生身の自分を含む人間と関連させて理解する関心をもち、全体としての目標達成感をもつほどに取組みを遂げることが出来たということは、その内容的な妥当性を示していると言えよう。 ② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価を見ると、豊かな教養のもと社会を多面的に捉える視点と知識習得の項目である＜知識＞＜理解＞及び、課題についての的確に把握し支援方法を＜検討する力＞＜判断する力＞、さらに、人々のいのちや生活の課題に関心をもち創造的に解決への道を探求する＜意欲＞、並びに、社会の一員としての自覚・責任・自己研鑽の態度に関わる＜規範習得＞に関して否定的回答は0であった。肯定の程度には差があるが、DPの位置づけとしても内容的に妥当であったと考える。 ③ 以上から、内容的には問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見はなかった。しかし、学習量の評価をみると、予復習に<1回30分以上>を1回以上実施した学生が2名であり、その内2, 3回実践した学生が1名、6回実践した学生が1名であった。② 授業の進め方に関して授業の質評価を見ると、否定的な回答は0であった。<評価基準>については「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「2, 2, 2」であった。それ以外の事項はすべて、肯定的な「かなり」「わりに」「まあまあ」という回答が順に「1, 3, 2」であった。③ 以上を踏まえるとき、いずれの事項も「かなり」と「わりに」で50%に達しているが、1) <評価基準>と<課題>を繰り返し明示し了解されること、2) <質問と回答><参加の機会>は、理解を助けることから、少人数の場合にはより活用すること、3) <理解>に関しては、その前提に知識が必要であり、<知識> 習得についても工夫すること、これらの点に留意して継続して改善に向け工夫をする必要であると考え。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、若者の宗教離れで宗教が身近でないことから、一層身近な事柄に翻訳して講義する必要がある。また、評価基準と課題は、最初に明示するだけでなく、折々に喚起し明示する必要がある。③ 総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得ることにある。「学生の授業評価アンケート」に「かなりそうだと思う」という回答が多くなるようにするには、<知識>が習得されたことを確認しながら進めることが必要である。特に新しい知識の習得に当たってはその確認が一層重要である。それには<参加の機会><質問に答える機会>が提供されていると学生が意識でき活用できるようにすることが重要であり必要である。③ 以上から、内容は妥当であるが、方法論としては、今後も明示と整理と確認の作業を繰り返すこと、身近なことに翻訳すること、参加の機会と質問に答える機会を活用できるようにすることが、今後の課題と思われる。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は入学後最初に受講する「総合人間科学」の科目であり、本学の建学の精神・教育理念、教育目的を理解させ、女性としてまた専門職業人としての生き様を考えさせる基礎科目である。受講動機のうち「関心のある内容である」は3.5%と低いものの、最終レポートにおいては本科目の講義を受けて大学4年間の学修の在り方や専門職業人としてキャリア形成等を考える契機となったと多くの学生が述べている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績評価平均値は83.3点であり、再試対象もなく、全員が標準的レベルに達しており、理想的レベル(90点以上)に達した学生も4名あった。 学生の到達度自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(平均値3.8)「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」(平均値3.7)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(平均値3.8)「「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」(平均値3.7)「職業選択の参考になった」(平均値3.8)等の項目の評価が高く、知識理解、意欲関心の目標が達成されたと考えられる。ただ、卒後専門職業人として生涯学習が求められる状況を見ると、本科目において自発的学習はほとんどなされておらず、図書館利用もほとんどされていないのは検討課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」に位置付けられており、入学後本学の建学の精神・教育理念を理解させ、女性として専門的職業人として生きていくことを考えさせる日必修科目である。成績評価や到達度自己評価からみて、一定の成果を収めており、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価、到達度自己評価、最終レポートの内容からみて、DP、行動目標を達成しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価（課題以外に学習に取り組んでいない理由）において、「何をしたらよいかわからない」「何を勉強したらよいかわからない」との意見が多くあった。昨年も同様であったため、今年度は講師にその旨を伝えてもらったが周知徹底しなかったことも考えられる。これからも講師にこの結果を伝え、学習の具体的な提示や本の紹介等もしていただくよう、ともに検討していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「総合人間科学（心身と健康）」科目に位置する本科目は、入学後早期に本学の建学の精神・教育理念を理解させ、女性として、専門職業人としての生き方を考えるという行動目標を達成できたと考えられる。しかし、授業の質評価における「学生の参加する機会」、「質問を受け付け、それに応える機会」の項目評価が低く、自発的学習量、情報利用、図書館利用も低率である。これらの結果を講師と共有し、これらの課題を今後とも検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1	前期	必修	はい	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	必修	はい	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、すべての学生が「必修科目である」と答えていた一方で、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と答えた学生はそれぞれ、5.2%、7.2%とほんのわずかしかなかった。これは、科目名からどのようなことを学ぶのかを学生がイメージしにくかった結果であろう。授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。 昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.1(±11.9)点であり、再試対象者は10名であった。成績分布別にみると、90点以上が11%、89～80点が25%、79～70点が36%、69～60点が23%、60点未満が5%であった。95%の学生が標準的レベルに達しており、そのうち36%の学生が理想的レベルに達していた。一方で5%の学生は標準的なレベルに達していなかった。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が53%、「まあまあそうだと思う」が25%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が23～42%、「わりにそう思う」が47～52%、「まあまあそうだと思う」が11～23%と、ほぼすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0～4.3)。 「思考・判断 (DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、「かなりそうだと思う」が17～26%、「わりにそう思う」が47～51%、「まあまあそうだと思う」が26～31%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8～4.0)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「知識・理解 (DP1)」、「思考・判断 (DP2)」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生(99%)が肯定的な回答を行っていた。 学生の自由意見としては、「人体の仕組みを学べて楽しかった」や「運動の大切さがわかった」、「多くの知識が身についた」などがあり、健康を維持・増進させることについての興味や関心を高めることのできた学生が数人いた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.6～4.1であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 昨年度は、ごく少数ではあるが、「説明がわかりづらかった」や「ゆっくり教えて欲しい」という自由記述があったが、今年度はまったくなかった。今年度は昨年以上に繰り返し説明を行ったり、できるかぎりゆっくりと話をすることを意識した結果かもしれない。 また、学習量の評価についてみると、今年度は1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていなかった学生が約49%であり、これは昨年度の65%より15%少ない値であった。このことは、今年度、学生の学習意欲を少しは高めることができたことを示していると考えられる。 しかしながら、約83%の学生は授業課題以外の学習に取り組んでいなかったことから、学生の興味関心の幅をさらに広げる工夫をする必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅰ	1	前期	選択	はい	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。 また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.5（±6.0）点であった。成績分布別にみると、90点以上が22%、89～80点が66%、79～70点が8%、69～60点が4%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約88%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が35%、「わりにそうだと思う」が57%、「まあまあそうだと思う」が8%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が26～27%、「わりにそうだと思う」が42～56%、「まあまあそうだと思う」が32%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.1）。 その他、「思考・判断（DP2）」、「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.8～3.9、4.0、3.9～4.2、3.9であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.5～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを 反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツの ルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、 それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはランニングや水泳、山登りなどを行っていた者も数人お り、また歩く時間を増やすなど運動量を増やすことを意識したという者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと 考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。 ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めているはない。講義の開始には前回の内容の「キーワード」の復習から行なった。 ③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は80点であった。 ②身の廻りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業で一応確認しながら授業を進めているが、授業評価で、もう少しゆっくり進めて欲しいとの意見があり、授業中にもう少しこまめに確認していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えたいと思っているが、残念ながら提案が無い。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年、受講動機が“単位数を確保するため”が、“関心がある”より多い傾向にある。そのため本科目の一般教養科目としての位置づけを明確に理解してもらうため、科目概要に加え、学科のAP、CP、DPについてパワーポイントおよび印刷物を使い詳細に説明した。 ②レポート課題は、評価項目と点数配分を明確に示すと同時に、評価が低いレポートの例、評価が高いレポートの例をだし、レポートの記載方法について詳細に説明した。また、レポート返却時には、レポートの振返りをうながすために、レポートの講評をおこない、個別に点数を開示した。 ③昨年の課題としてあげた学習時間の確保については、まず、レポート作成に複数の文献を使用することを評価項目にあげ、図書館スタッフの協力を仰ぎ、図書・文献検索、インターネット活用を積極的にするよう促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は77点であり、受講者全員が標準的レベル(60%以上)に達し、理想的レベル(80%以上)に達していたのは全体の35%であった。 ②知識理解の達成度は94%、学生の“知識理解の到達度自己評価の平均値は4.1”、“知識を確認、修正、新たに得ることができた”については4.6であった。また、思考判断についての到達度は100%で、学生の“到達度自己評価平均値”も4.5と”事象(自然・人・社会)を理解する視点や考え方を得ることができた”と回答している。 ③授業の質評価は、昨年よりも評価が高かった。”課題レポートの評価基準の明確さ4.6”、“自分の意見をまとめる・話し合う・発表する”という授業スタイルの評価5.0であった。とくにグループ討議は、コミュニケーション力や表現力を高めることができたという学生の到達度自己評価4.4からみても講義手法としては効果的と思われる。また、上記の結果は、今年度の学生の受講動機が”科目への関心”と答えた者が多かったこと、“講義から知識を得、深めようとする学生の意識”が高かったことに起因すると思われる。 ④学習時間については、1回30分以上の予復習をした学生が82%、2回以上50%、4回以上10%と、昨年よりかなり学生の学習時間が増えている。図書・インターネットの利用率も96%と高くなった。講義の中で図書館利用をするよう積極的に指導したのが良かった。また、図書館スタッフの協力が得られた結果でもある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり選択科目である。一般教養・基礎知識を培い、課題解決をするための方策を学ぶ科目である。事象(自然・人・社会)に興味関心をもち自身との関わりを確認する意味でも内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断の到達度も全員標準レベルに達しており内容は妥当であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館の利用を学生に積極的に薦め指導したこと、また、それについて図書館スタッフの協力が得られことにより、学生の図書・インターネット利用率は高くなった。しかし、学術データベースの利用は47%にとどまっている。次年度は、さらにデータベースを利用するような工夫を取り入れ、学生が図書館を多いに活用することができるようにしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一般教養と基礎知識を培うという目標は達成できた。グループ討議は、コミュニケーション力と思考力を磨く意味では効果的な方法と思われる。次年度もこの取り組みを講義と組み合わせ実施したい。また、図書館を活用できる力をもってもらうため、図書館スタッフと連携をとり、データベース検索を促すような取り組みもしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	東野 充成

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と統計	1	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施に当たっては、統計学の基礎的な概念と計算方法を修得できることを目標とした。とりわけ、医療や福祉の領域で多用される統計分析の使い方と読み方を修得できることを重点に置いた。これらの目標を達成するためには、受講者が開講時点でどの程度の高校数学の素養を有しているのかを認識しておくことが必要であり、開講初日に高校数学で習った範囲のアンケートを取り、また簡単な計算問題を実施した（確率、積分、指数対数など）。その結果、受講者の間で既習範囲がまちまちであり、また既習範囲でも正解できない学生がいたため、できるだけ数式は使わずに説明する方法を実践した。また、計算が必要な箇所も、エクセルを活用して計算できるよう指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートを評価した結果、2回のレポートを通して、ほとんどの学生が、エクセルを用いて、相関係数及び回帰分析の計算をできるようになっていた。当該レポートでは、計算結果の意味を文章で表現することも課していたが、叙述や表現において拙さはあるものの、計算結果の意味を根本的に取り違えているという学生はほとんどいなかった。その結果、成績の平均点は79.39点、学生のほとんどが秀・優・良と評価されており、一定程度目標は達成されたものとする。また、レポート作成に当たりインターネットを利用したものが半数を超えており、授業の質的評価も総じて高かった。ただし、レポートの1回目の提出では、計算結果が統計の原則と整合性が取れていない学生や数値の意味を読み違えている学生も数名おり、こうした点で、上記表目標を十分に達成できていない学生もいると考えられることから、「やや達成された」という結果とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の学生にとっては教養の選択科目に位置づけられ、受講へのインセンティブは必ずしも高くない。実際、受講動機において、ほとんどの学生が「単位数を確保するため」と回答している。しかしながら、統計の基礎的な概念は医療や看護の領域においても多用され、エビデンスに基づく医療など統計の必要性は日増しに高まりつつある。また、現代社会を理解する上で必須の素養のひとつである。本講義の前半部分では主に統計の基礎概念についての講義を、後半部分では特に医療・福祉・教育などの領域における現代日本の状況を確認するという講義を行ったが、これは上述のような本科目の位置づけを鑑みてのことである。その結果、学生にとっては必ずしも受講動機が高くない科目ではあるが、学習到達度の自己評価や授業の質評価では、比較的高い値を記録しており、内容の妥当性は確保されていると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	できるだけ数式は用いないで統計の基礎概念や数値の意味を理解できるよう工夫はしているが、基礎的な演算に関しても課題を抱える学生が少数ながら見られる。これまでは高校数学のⅠA及びⅡBレベルを修得していると想定して授業を組み立てていたが、開講時に簡単なブレイズメントテストを行うなど、基礎的な数学力の確認を行うことが必要となりそう。また、エクセル等の表計算ソフトの使い方については、別の授業で学習しているものと想定していたが、受講者によってはまったく学習していない学生もいた。そのため、表計算ソフトの使い方と、それをを用いた簡単な演算方法等についても享受する必要があると考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護を学修する学生にとって必ずしも興味・関心の高い分野ではないという点にかんがみるなら、ある程度教育目標は達成できたと考えている。学生が提出したレポートを読む限り、相関係数や回帰分析など、統計学の基礎的な概念や演算について、一定程度達成しているものと考えられる。ただし、講義の前半部分はどうしても基礎概念や演算方法を教える授業が中心となり、現代社会を見る視点が手薄になりがちである。また、医療分野での統計学の利用実態や医療における統計の利用法なども、詳しく教授できていない。今後は、看護を学ぶ学生の興味・関心をより高めるため、医療統計の紹介や、医学における統計の利用実態・利用方法を紹介する講義内容も組み込みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	浅羽 修丈

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報リテラシー	1	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、コンピュータを使った授業であるため、受講者の多くは、コンピュータの操作スキルの習得を目的に受講したのではないかと想定していた。実際に、受講動機を確認すると、「パソコンが苦手だから。」「パソコンの技術を修得したかった。」とあり、想定は合っていた。しかし、準備段階において重要視したのは、コンピュータはあくまでも道具であり、その道具をどのような場面で、どのように扱っていくべきかについて、学生に意識させることである。単純にコンピュータの操作スキルを学ぶことに留まらず、社会の実場面を想定して“情報”をどのように活用していくかについて学んでもらうように授業計画を立てた。 今年度に置いては、開講時の学生の学修準備性について調査はしていないので、今後の課題となる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均は、80.4点と高く、多くの受講生が良いレベルまで知識理解したと捉えることができる。受講生の到達度自己評価を見ても、「自分なりの目標を達成した」が4.5、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が4.6であり、非常に高いレベルで目標に到達したと感じている。 しかし、授業中に、受講生の多くがコンピュータの操作スキルの習得を目指して受講しているように感じている。課題は、そこからいかに脱して、社会の実場面を想定した上で“情報”をどのように活用するかである。そのための知識理解を深めるような授業計画が必要であると考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、情報系の科目であり、コンピュータを操作しながら学ぶことに特徴がある。看護学科の受講生が、将来、看護師などの医療・福祉関係に就いたときにも、コンピュータを操作する機会が多いことが想定され、カリキュラム上も重要な位置づけにある科目であると考えている。しかし、近年では、初等・中等教育でも情報教育は実施されており、必要最低限なコンピュータ操作スキルは身に付けている学生が少なくないことが予想される。授業評価アンケートの受講動機からも、「単位数を確保する」が77.3%、「GPAをあげる」が4.5%であり、2つを合わせると80%を超える。これは、コンピュータ操作スキルに、ある程度の自信を持っている可能性が示唆された数字であると考えます。 その意味でも、この科目は、上述したようにコンピュータ操作スキルにとどまるのではなく、社会の実場面を想定して“情報”をどのように活用していくかという、ひとつ上のレベルを目指すべきである。このことから、カリキュラムとして「選択科目」というのは妥当だと判断する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の5項目のうち、4項目で4.8と高い評価を頂いており、授業の進め方については概ね良い方向で進められていると感じている。4.8には至らなかった「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目に関しても、4.2と低い評価ではなかったが、今後、その機会を増やしてもよいのではないかと考えている。 学習量の評価に関しては、物足りなさを感じる。予習・復習をしていない受講生が多く、何らかの形で予習・復習を促す刺激を与えることができればと考えている。特に、学習量の評価の自由記述では「やることがわからなかったから」という意見があり、予習・復習のための明確な指示を与えることが重要だと感じた。 来年度は、上述の内容を検討しつつ、授業計画を進めたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標の到達度においても、授業の質評価においても、概ね良い評価を得ることができた。しかし、課題は幾つかある。その主な課題を以下に記す。 ・受講生の学修準備性を把握するためにも、簡単な診断的評価を取り入れる。 ・コンピュータの操作スキルの向上だけでなく、“情報”を活用するための知識理解の向上を目指すための授業内容を取り入れる。 ・受講生の学習量を増やすために、予習・復習のための明確な指示を与える。 来年度は、上述の内容を考慮に入れて授業改善に努めたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、ICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろPCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やビジネススキル、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。 受講動機では、1年生前期の必修科目ということもあり、「必修科目である」が96.8%と突出した数値となっている。その他の項目の数値が極めて低いことから、カリキュラム全体における本科目の位置づけや狙いについてはほとんど理解せず、単に必修であるので受講したということが伺える。前年度も同様の結果であったため、第1回授業においても科目の位置づけなどを十分説明したが、その改善が数値上ははかれていない点は残念である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.9点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」の学生が64%、「良」も加えると87%に上っており、授業目標であり理想的なレベルを達成できたといえる。 学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として(2)の項目を除くと「わりにそうだと思う」が5割程度を占めており、「かなりそうだと思う」が3割程度となっている。成績評価の結果からみると、もう少し高い数値であってもよいと思われるが、看護学科という特性および入学直後の1年生であるという点から、医療現場におけるICTスキルの重要性について理解が浸透していないのだろうと感じられる。また、成績の観点からは(2)の項目がもう少し高い数値でもよいと考えられるが、学生が修得できている知識やスキルに対して、学生自身がそこまで確信をもてていないことが示唆されている点は今後の検討課題としたい。 その他、(9)、「(10)の項目については、看護学科というともあり卒業後の職業目的が明確に絞られていることが反映されているのではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される必修科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、昨年度も同様の結果であったため、SNSによる新たなコミュニケーション手法やICT活用による表現技法等を授業に組み込んでみたが、あまり改善されていない点は改善を要する。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で思考し工夫していく課題になると対応できない点が見受けられる。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、(1)から(3)に関して「かなりそうだと思う」が5割を超えており、「わりにそうだと思う」を含めると8割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、グループ活動の場面でPC活用を想定した内容を組み込むなど、今後の検討が必要である。 「学習量の評価」では、(4)について「していない」が7割を超えている。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、家庭にPCを持っていない学生も多く、次年度硫酸の改善が必要である。 また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていたが、成績評価の観点からは、このことについて十分な結果を残していると言えるが、そのことを学生が実感できていない点は問題が残った。昨年度も同様の結果であったため改善を図ったものの、さらなる検討を要する。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。しかし、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点では、学生に十分な実感を持たせることができなかった。また、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点でも、改善の余地を残した。 以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫などで改善を図っていきたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方だけでなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の受講動機の6割が、「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「必修科目である」「単位数確保」が主要な動機である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は91.8点で、標準偏差は6.36点であった。 受講者の半数以上(29名)が90点以上で、残りの15名も75点以上であることから、教育目標は達成されたといえる。 単なるPowerpointやExcelの使い方にとどまらず、Webページの構成法やProcessingプログラミングなど、抽象度が高く、高度な内容を含んでいることから、到達度自己評価はすこし低めになっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 アニメーションやインタラクティブな表現については、学生にとっては面白く興味深い反面、自在に操るためには高度な知識が必要となることから、発展的な内容として扱うほうがよいとも感じている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アニメーションやインタラクティブな表現について、今年は具体的な動作サンプルを提供し、それを選ぶことで、作品をつくりやすくする効果は提供できたと考えているが、今後は発展的内容として紹介するにとどめることも検討している。 ほかの講義の演習に時間がとられるようで、学生の自主的な予復習を期待しつつも、現実的には難しい現状があると理解した。学生の負荷を他講義と共有できるのが望ましいが、困難な場合は締め切りを柔軟にするなどして、ほかの講義や演習負担との重複を緩和するようにしたい。 講義資料については、Web上で配布しているが、重要なものは印刷して配布するようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	* 総括的評価 * 新しい知識を提供することは成功しているが、職業・専門分野との関連や、意義づけについて、改善する必要がある。 * 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーに、大きなばらつきがある。タイピングスピードが遅い学生は、操作が遅れがちになるため、説明においていけない。とくにスキルやリテラシーのひくい学生に対して、上記で述べた学習の動機付けを改善することが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「単位数を確保する」70.0%、「関心のある内容である」20.0%であった。資格取得には直接結びつかない科目であるためか。ただ、保健福祉学部3学科（2016年度は栄養学科の履修者がいなかったため、2学科）同時開講の科目のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均は74.73点で、再試験対象者はいなかった。また、理想的レベル(80点以上)に達した者は3名であった。前期試験は、知識理解を文章で論述してもらった問題形式であったが、履修者は昨年度より大幅に少ないものの、学生の意識が高かったせいか、講義内容をある程度以上理解し、筋道通った文章で解答している答案も見られた。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.5、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均が4.4と高く、「自分なりの目標を達成した」の平均も3.9であることから、学生の目標達成度は高い。また、DPには加えていないが、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均が4.1と高い。これは「法学概論」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによるとと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、どうしても「単位目当て」の学生が多くなり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定以上の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考ええる。②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均が4.4と高く、レジュメ作成など、理解しやすいように様々な工夫を凝らしている努力が報われていると思われる。また、実際に質問はなかったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均は3.9であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3であった。この数値は講義の性質上、やむを得ないものとする。学習量について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、「授業の課題以外に具体的に組み込んだ学習」「教科書」「ニュース」が挙げる学生が見られた。他方、「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」に「他の教科に時間を回したかったから」との回答がいくつか見られた。なお、学生からの意見はなかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が学生に定着することを目指す。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人権と社会	2	前期	選択		16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①人権について、高校までの学習では「人権は大切だ」「差別はいけない」ということさえ書いておけばなんとかなるというふうに教えられてきていることが多いので、まずはそうした学びの姿勢を覆すことを第一にした。 ②また、学生は講義中は板書を写すことに専念して講義を聴いてノートをとるという習慣がないので、板書する分はあらかじめレジュメとして配り、新たな知見はそれに書き込んでもらうように指示した。 ③それらを強いるために毎回内容に対して学生自身の思考を問う課題を提示し、それを提出させるようにした。 ④また、途中二回中間テストを行い、かつこれを各自相談の上で解答させるということによって協同学習及び学習知の深化をはかった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①15名の受講生のうち秀が6名、優が5名、良が4名であり、おおむね高い評価を得ることができた。受講動機は60%が「単位数確保」であったが、33.3%が内容に関心を持っており、おそらくこれらの学生の影響が学修意欲に結びついたのであろう。 ②随時ディスカッションを取り入れたが、議論は活潑であった。 ③担当教員への意見として「授業が楽しかった」「わかりやすかった」「初めて知った知識が多かった」というものが出てきており、興味を喚起したこと、「この授業を受けなかったら人権についてこんなに考えることは無かった」といい自由記述は大学の講義としての一定の役割を果たしたのではないと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学科目であるが、看護という専門性に於いて関わりのあることが多いせい興味を喚起したと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

到達度自己評価は3.7～4.0を示しており、授業の質評価も3.7～3.9であってほしい順調であったと思うが、授業の準備、復習に取り組む学生も見られることから現在のやり方は外れてはいないと思う。但し、討論の質にはまだ不十分なものもあるし、資料の解説などに工夫がいると考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

看護学科の専門科目と並行して学んでいるので、専門科目とある程度結びつけて考える思考ができてきていると思われる。また互いに教え合ったりする形式は学習意欲を喚起するようなので続けていきたい。また、講義の密度にばらつきがあったり、新しい課題も出てきているので、シラバスの改善を計りたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語 I	1	前期	選択必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書「医療英語入門」に沿って、医療現場における会話の練習、医療の単語学習（病名、症状、薬剤、道具）、文法解説、リスニング練習を行った。②教科書にはリーディングのパートがなかったために、DVDを使用し、映画の医療に関連したシーンを鑑賞し、このシーンについての英文サマリーの和訳を行った。学生評価でも英文サマリーの和訳が楽しかったと評価が高かったのは、今まで全く予備知識のない医療関連の単語や表現の学習が主であったため、映画で場面設定に対する予備知識をつけて、和訳を行う作業が楽であったためと考えられる。また一般的に医療に関連していないと思われる映画にも、医療問題を暗示するものがあり、これも学生の関心を惹いた要因だと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は95点、再試対象者は0名であった。標準偏差値はSは84名、Aは12名、Bは5名、Cは1名であった。DPにおいても「知識の確認、修正、新たに得る」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」項目に高い評価を上げる学生が多かった。しかし、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」や「職業選択の参考になった」項目では、他の項目と比較して評価は低かった。看護学科の性質上、英語の授業は選択必須科目という観点から、学生は単位を取得することに重きを置き、将来の職業とは直接的な結びつきを感じることができなかったことが第一の要因として挙げられる。学生には医療現場での国際化という観点から指導を行ったが、実際には学生の認識は高まらなかった。但し、医療英語の習得にはかなりの時間を要し、指導を行ったので、「専門分野で学びを深める」「専門分野で必要となる技術を身につける」の項目では比較的高い評価を挙げた学生が多く、学期末の高得点へとつながったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性：自らが医療現場で役立てることができる英語の修得を目標にする。医療現場で使用される重要な英語表現を身につける。これはCPの『豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける』の目的に合った内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP、行動目標からみでの内容的妥当性：DPの特徴として「職業選択の参考」では高い評価を示す学生と低い評価を示す学生がおり、質問の趣旨を理解することに個人差がかなりあったと考えられる。看護学科における英語学習の観点から、DPの「職業倫理」「職業選択」の項目には質問方法の工夫が必要かと思われる。全般的に、学生はのびのびと英語学習を行っており、授業も楽しかったという意見が寄せられ、以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価： オリエンテーションにおいて学生は評価基準や学習の範囲や課題について、よく理解していた結果が授業の質評価に反映されたと考えられる。②学習量の評価： 看護学科は実習、レポートなどで1年時より専門領域の学習が多いために、英語は授業内で復習すべき点を徹底させ、予習復習時間を短縮できるように配慮した結果、予習復習を行った学生が少なかった。但し、語学学習の習慣化を行うためには、一定量の宿題の必要性も検討すべき課題と感じた。③学修のための情報利用、図書館利用： シラバスを参考および活用にした学生は全体の半数であった。英語学習に対する関心度の低さが示す数字なのか、あるいはシラバスを参考にする習慣が身についていないからなのかは理解できないが、オリエンテーションでの授業に関する情報の徹底化が必要であると感じた。図書館利用は皆無であり、情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護学科の教科書「医療英語入門」は医療現場で実際使用される場面や語彙が編集されており、学生が教科書に沿って学習することを容易にしている。また、卒業後も医療現場で英語が要求される場面においても、ハンドブックとしての使用が可能であり、役立つ情報を提供していると思われた。但し練習問題や会話練習の英語は若干、難易度が高く、学生が解答および暗記練習では苦勞しており、指導面でも更なる工夫が必要だと感じた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話 A	1	前期	必修	はい	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focuses on oral communication, specifically vocabulary, speaking, and listening skills in a medical setting. The textbook was Vital Signs 1 (Nan'un-do) which included functional and grammatical targets in a variety of medical contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (passive participation 30%, active participation 23%, vocabulary building 27%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in vocabulary and communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-89 range.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students showed progress in their interest and attitude towards English. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in medical contexts. The specific skills acquired were functional, in terms of medical vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning English. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

My main goal for the next academic year will be to continually transition the Nursing Departments to a medical English-oriented curriculum. This will include integrating increasingly relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Creating assessment tools to encourage acquisition of medical vocabulary for use in medical situations will require a strong vocabulary component. This will continue to be achieved through weekly assessment and blended learning opportunities. Vocabulary use will be solidified through frequent role-plays and group exercises involving basic grammar and appropriate medical vocabulary.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話 A	1	前期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focused on oral communication, specifically speaking and listening skills. The textbook was Vital Signs (NAN'UN-DO)), which focused on building linguistic confidence through basic functional and grammatical targets in a variety of hospital contexts. The students engaged in active learning exercises such as vocabulary building, dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and practical role plays.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 15%, class work 25%, homework 10%, vocabulary tests 30% and a final comprehensive test 20%. Students scored well on most areas of assessment, with the majority of students earning a grade in the 80-90 range.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students worked hard to study hospital vocabulary lists and fulfill the homework requirements every week. Most students showed progress in their interest and attitude towards English, and seemed to appreciate the usefulness of each lesson as it related to their major area of study. Lessons were short and focused, so students could see individual improvement with each new functional target. The specific skills acquired were both functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic communication skills.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I am very happy with the results achieved through the current textbook. My main goal for the next academic year will be to supplement each lesson with outside or student generated materials relating to the topics of each unit.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Current assessment is heavily dependent on class participation and performance on weekly vocabulary tests. Since a considerable amount of homework is based on vocabulary and grammar self-study, students need to continually be encouraged and monitored. Using a class workbook to encourage note taking and keep a careful record of homework obligations may help maintain the students study objectives throughout the course.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲル I	1	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで（学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施）「英語以外の言語に触れてみたい」や、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」「友達が取るから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。 ○受講姿勢に差がある５０（福祉学科、栄養学科との合同授業のため）に近い受講生全員が興味と持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のＫ－ｐｏｐなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績平均が82.6956と理想的レベルに達することができ、再試対象者もいなかった。 授業評価における到達度自己評価でも多くの設問で満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「知識を新たに得ることができた」や「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の設問に特に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として、目標としていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。 DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。 まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、韓国語会話の時間を増やすなどコミュニケーションの機会を増やすように努めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。来年度も引き続きよい成果を挙げられるようにがんばりたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	菊田 彰夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学 I	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 形態機能学では分析的で系統的な学習をもとに、総合することが求められる。形態機能学では、構造名を覚えるのではなく、対象の構造と機能を理解することに重点をおいている。理解を深めるとき、自らが問題意識をもつことを求めている。 ② 対象の構造と機能について、原理を理解し、説明できることを目標とし、暗記に頼らない学習方法を説明した。 ③ 講義1回毎に、重要事項の確認のための小テストを実施し、理解状況を自己確認するようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均値は67.0 (±12.8)点であり、再試対象は33名であった。最終的には全員を合格としたが、知識量、理解度ともまだ不十分なものが多い。試験問題で、説明を求める問題の結果は不十分であった。学生の意見でも、「重要なこと」のみの、断片的な知識理解を求めていると思われるものがある。形態機能学では、各器官系毎の構造と機能を学んでいるので、それぞれについて、講義の受講だけでなく、自己学習が重要であり、小テストの復習のみでは不十分である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門基礎科目」であり必修である。看護の対象である人について、その構造と機能を理解することはもっとも基礎的なことであり、これを自覚し、自ら深めることが求められるが、単位修得のみを目標とし、最小限の学習のみで済ませようとしている学習態度の学生が少なくない。修得が求められる知識量は多く、また複雑であり、講義の聴講および教科書の自習を、問題意識をもち、自覚的、自発的に実践していかなければならない。試験結果からは目標の達成度は高くなかったが、形態機能学は医学系の大学の科目であり、講義内容は妥当である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義中、声が小さく聞き取りにくかったとの意見があったが、適宜、音量の適否について確認しながら講義をすすめる。
講義中使用する図は、最大限配布する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門基礎科目であり、基礎的知識の形成が重要であるが、自発的学習がないと十分な成果は得られない。知識の習得が、専門家として必修であり、責任があることの理解が進めることが課題である。
毎回の目標をより具体的に示すこと、また、予習課題を提示することとする。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①看護師国家試験受験資格を得るための必須科目である。1年前期開講ということもあり、例年科目概要とカリキュラムの位置づけを説明するが、今年度はそれに 加え、学科のAP、CP、DPについてパワーポイントおよび印刷物を使い詳細に説明した。 ②講義の間に質問の時間をとりいれ、時々、学習理解度を深めるために学生同士で意見交換をおこなう場を設けるようにした。 ③国家試験レベルのミニテストを講義8回目に実施した。今年度はその講評と正解を導くための解説をパワーポイントを用い解説した。 ④レポート課題は、評価項目と点数配分を明確に示すと同時に、評価が低いレポートの例、評価が高いレポートの例をだし、レポートの記載方法について説明した。レポート返却時には、レポートの振り返りをうながすために、レポートの講評をおこない、個別に点数を開示し ⑤学習時間の確保については、レポート作成に複数の図書を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的にするよう促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は66.5点であり、再試験対象は23名であった。この結果はほぼ例年と同様の結果であった。78%の学生が標準的レベル(60点以上)に達しており、理想レベル(80点以上)の学生は9名であった。国家試験レベルのミニテストの平均得点は79点(100点に換算)で、6%の学生が60点に満たなかった。しかし、昨年と比較すると学生の準備状況は良いと思われる。 ②知識理解の達成度は85%で、自由意見より知識の整理は、教科書・課題プリントにそってまとめ復習した、自分でノートを作成したなど学生が主体的に取り組んでいる様子がうかがえる。”学生の知識理解の到達度自己評価平均値4.1”、“知識を確認、修正、新たに得ることができた4.7”、専門分野の学びを深めたいと意欲をもつことができた4.6”であった。思考判断の到達度は75%で、“専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.5”、“専門分野において的確に判断する力を得ることができた4.3”であった。 ③授業の質評価では、“テスト・課題レポートの評価基準が明らかに示された平均値4.7”、“自分の意見をまとめる・話しあう機会が作られた4.4”と、今年度の改善が効果をあげたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は看護の基礎知識を培う上で国家試験に必須の科目である。学外実習が1年次から開始されること、他科目との連動性を鑑みると開講時期も内容も妥当であった。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 初学者の1年生にとり、この科目は難しい科目である。しかしながら、学生の知識・思考判断の達成度から妥当な内容であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の自由意見から、教科書を使い復習する・ノートをとめるなど主体的に学習に取り組む学生がいる一方で、何をすればいいかわからない、自分に甘かったなど学習方法に迷いを抱えている学生がいることがわかった。予復習に1回も時間をかけなかった学生が10%いることから、次年度は学習法について、学生の相談をうけるような取り組みを行ないたい。また、モチベーションの低下がみられる学生についてはゼミ担当者と連携し対応したい。②今年度は図書・インターネット・文献検索など図書館を利用した学生が55%いた。昨年に比較し20%ほどアップした。今年度のレポートについての改善点が効をなしたと思われる。次年度も引き続きこの取り組みを実施したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	看護専門基礎科目としての位置づけから、本科目をとおり看護に必要な知識・問題解決をはかる基礎的な思考力はほぼ達成できた。しかし、学習量が不十分な学生が10%おり、学習法に迷いを抱えている学生もいることから、このような学生に対するサポートをどうするかが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅰは、内科疾患と外科・麻酔科・婦人科疾患が範囲です。先端医療にも対応できるように、外科・麻酔科・婦人科の講義は医療現場の専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験(含・中間試験)の平均値は77.5点(最高95.3点、最低58.3点)でした。秀:13名、優:40名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の63%でした。60点未満の再試対象者は4名で、再試では4名ともに60点以上でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、全員が標準レベルに到達したと判断しました。 内科の平均点が79.1点(最高97.5点、最低55点)で、外科・麻酔科・婦人科の平均点が66.8点(最高95点、最低29点)と大きな差が出ました。今年度より外科・麻酔科・婦人科の試験問題を内科担当の教員が見直すなど工夫を行いました。分野による試験の難易度を統一することが出来ませんでした。分野による講義内容や形式の差異があるのでやむおえない面もありますが、次年度の課題と考えます。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは三分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとと少数でした。次年度は学生さんが自分から勉強したり調べたいような講義内容になるように努力したいと思います。 配布レジメの一部が見にくいとの意見がありましたので、次年度は改善します。また、外科・麻酔科・婦人科の講義でも配布レジメが欲しいとの意見がありましたので、次年度は外部講師の先生方に改めて依頼します。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。 なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、改善を試みましたが今年度も試験の難易度などに差が出てしまいました。次年度は全体の統一性を持たせるようにさらに努力したいと思います。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅱは、内科疾患（疾病学各論Ⅰの範囲以外）、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。先端医療にも対応できるように、小児科と精神科は専門家に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験（含・中間試験）の平均値は75.4点（最高90.2点、最低58.2点）でした。秀：1名、優：30名であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の31%でした。60点未満の再試対象者は4名で、再試では1名が60点以上でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、ほとんどの学生が標準レベルには到達したと判断しました。再履修となる3名の学生さんは来年度に改めてしっかり勉強して下さい。 内科の平均点が84.2点（最高100点、最低56点）で、小児科の平均点が78.0点（最高94点、最低60点）、精神科の平均点が55.7点（最高83.3点、最低26.2点）と大きな差が出ました。分野による講義内容や形式の差異があるのでやむおえない面もありますが、次年度の課題と考えます。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の評価を得ていますが、「疾病学各論Ⅰ」と比べると「そうでないと思う」の回答が多いです。また、自由記述でも授業内容や形式について一部に否定的な意見がありました。次年度も基本的に今年度の方針を継続しながら、改善すべき点は教員間で相談していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは四分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとと少数でした。次年度は学生さんが自分から勉強したり調べたくなるような講義内容になるように努力したいと思います。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。 なお、本科目では内科、小児科、精神科の3名の教員が講義を担当しているため、今年度も試験の難易度などに差が出てしまいました。次年度は全体の統一性を持たせるようにさらに努力したいと思います。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	前期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床検査は、診断の確定、重症度の判定、治療効果の判定など、臨床経過の様々な場面で重要な役割を果たしています。看護師が自分で検査を行うこともおおく、検査データから患者さんの病態を把握することは看護師に必要な臨床力です。看護師国家試験にも検査に関する問題は出題されます。本科目では、血液検査や尿検査だけでなく、レントゲンなどの画像検査や心電図などの整理検査など幅広い内容を対象としています。主要な検査項目の意味やデータの解析を説明するだけでなく、心電図、肺機能、眼底鏡、検尿などの演習を行って臨床現場で「現物を初めて見た」と戸惑わないように工夫しました。また、授業の後半では疑似症例の検査データを提示して、そこから病態を把握する方法を解説しました。授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、本科目の内容が看護業務に直結するものであることを、学生さんは十分に理解しているものと思います。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均値は75.9点（最高100点、最低52点）であり、秀：6名、優：37名であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の43%でした。60点未満の再試対象者は9名でしたが再試で60点以上でしたので、全員が標準レベルに到達していると判断しました。今年度も試験に教科書の持ち込みを許可し、教科書を見ながら提示された検査データを解析して患者の病態を把握する問題を中心に出題しました。知識理解だけでなく、思考判断の力を評価する問題になったと考えています。その結果、知識（暗記力）を問う設問では高得点の学生さんが、病態把握の設問では点数が低かったり、その逆のケースもありました。知識と思考をバランスよく身に着けていく必要があると考えます。授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの観点において「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。心電図などの演習や、症例の検査データを用いた病態把握の講義を通じて、皆さんが総合的に勉強した表れたと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。上述のように、臨床検査に関する知識や検査データから病態を把握する力は、今後の看護科目の学びや将来の看護師業務に必要な不可欠です。試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。自由記述でも、演習を行ったこと、症例を使用して病態把握の解説をしたことは肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは三分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひともし少数でした。次年度は学生さんが自分から勉強したり調べたいような講義内容になるように努力したいと思います。 昨年度に指摘があったマイクの音に関しては改善されました。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 個々の検査に関する説明を行うだけでなく、心電図などの演習を行い、検査データから病態把握をする方法を解説したことは学生さんの臨床力を養うために有効であったと考えます。 試験は昨年同様に教科書の持ち込みを許可し、検査データを解析して病態を把握する問題を中心に出題しました。学生さんの知識だけでなく、思考・判断の力を評価することが出来たと思います。試験結果をみると、思考・判断の力が弱点であると感じました。これからの大学生活で、目の前のデータから物事を考える力を身につけていって欲しいと期待します。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	大住 伴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬理学	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 医薬品は必ずしも決まった作用が現れるわけではなく、投与されるヒトの持つ様々な要因によって作用は異なり、時には主作用が副作用に変化することもある。臨床の看護の現場でも、教科書等に記載されている作用以外に様々な作用（特に副作用や薬物相互作用）が現れることを理解して、臨床の現場に出た時に役立てて欲しいと思い講義を行った。 2. 15回という少ない回数で膨大な内容を教えなければならないため、要点等をまとめた、また、重要なポイントはあえて空白にしたプリントを毎回用意した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	101名の受講生のうち、定期試験で、90点以上が17名、80～89点が26名であったが、一方、60点以下が9名であった。再試験では全員合格となった。また、未受験の学生も1名いた。このように理解が十分な学生が多くいるものの、理解が不十分な学生も見受けられた。薬理学の学力が不足だけでなく、その他の科目の学力が不足しているため、薬理学が理解できない学生もいると思われた。 学生の理解確認のため、単元毎に小テストなどを実施したいと考えるが、現在与えられている時間は、国家試験のある科目を、求められている内容を講義するのにも充分ではない時間のため、小テスト等の時間が取れない。また、学生の授業評価でも、授業の進捗が早すぎるとの意見が多くあったが、学生からすれば当然の意見とも思われる。前述したように、毎回の講義には必ずプリントを用意して、効率よく丁寧にとは考えているが、小テストの実施、ゆっくりした講義を行なうのは今の与えられている時間では無理である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目「看護を学ぶための基礎」であるが、基礎と応用をつなぐ科目でもあり、国家試験にある必修科目である。「看護を学ぶための基礎」では、看護の対象である人々を総合的に理解し、看護を実践するための基礎的知識・技術の修得および態度を育成するとともに保健・医療に関わる倫理観を養うことが目的であるが、この科目はその中の看護を実践するための基礎的知識の修得に該当する。 2. DPからみでの内容的妥当性 この科目で求められているのは「DP1-2：看護学分野での基礎的知識を修得している」であるが、前述のように、101名中80点以上が43名、再試験で全員合格であるため、内容的には妥当であったと考える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前述のように、学生から「授業の進み方が早い」、「黒板の字を消すのが早い」などの意見を多く貰ったが、これも前述したように、限られた時間内で非常に多くの内容を講義する必要があるため、ある部分仕方ないと思う。時間節約のため、要点をまとめたプリントを毎回用意してもこのような意見が多くあるということは、現在与えられた時間内で国家試験範囲に該当する内容を講義するのは無理と考える。ちなみに、他の学校では、1.5倍以上の講義時間が与えられている。また、学生から「教科書に間違いが多くあると言われて驚いた」、「間違いのある教科書を使用するのはおかしい」などの意見があった。大学における教科書は、高校までの教科書とは違い、間違いがあることは多い。正しい内容を記載した薬理学の本は多くあるが、非常に高価で、研究者向けのレベルの高い本である。現在、看護の学生向けにある数種類の教科書の中では、現在使用している教科書が一番適切で、多くの大学等で採用されている。したがって、今後も現在の教科書を使用しながら、間違いの箇所を訂正するということになる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	この科目に求められているDP「看護学分野での基礎的知識を修得している」は概ね達成できたと思う。さらに達成するためには小テストなどの実施が望まれるが、現在の与えられた時間では実施は無理である。学生からは、講義の進め方について多くの意見を貰ったので、来年度はそれらの意見を参考に講義を進めて行く考えである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政論	2	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、99.0%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のは3.0%であった。科目の名称から、保健・医療・福祉の制度を学ぶことが想像できるが、学生にとって法律の講義は苦手意識が強い。 毎年、学生の「苦手」を前提に講義内容を組み立てている。中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説している。毎回、講義の最後に出席シートに授業の感想等を記入してもらい、記入された質問には紙面にコメントまたは次の授業で回答した。出席シートの書かれていた内容を見ると、「わかりやすい」と「全く分からない」の両方の意見があり、また、「スピードが速くてついていけない」と「ついていける速さだった」の両方の意見があった。授業評価では、「講義がわかりにくかった」という記述があった。毎回の出席シートの活用を促し、「わかりにくい」を繰り返さない工夫をしたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点72.0点(標準偏差9.6点)であり、再試験対象は8名であった。成績の内訳は、秀 1名、優 19名、良 50名、可 29名、不可 7名(うち再試験未受験6名)であった。 テストは、暗記で回答できる部分と、暗記だけでは回答できない事例を使って問う問題を作成している。中でも、事例部分の回答に差が見られた。授業内で実施した事例であったが、グループで事例検討を実施したため授業参加の積極性によって理解の差が出たと考えられる。個々が頑張るために動機づけを強化する必要がある。また、興味をもって学べるように、方法を考えたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護を学ぶための基礎」に位置付けられており、今後、看護学を学んでいくための基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても一定数の問題が出題されている。「知識・理解」の成績は正規分布に近いが、事例を使った「思考・判断」の成績は、二分化する傾向があった。法律そのものを憶えるのではなく、実際の状況に近い事例で活用できることが求められるため、生活状況をイメージしながら制度やサービスの解説をしていきたい。学生の受講動機において、主体的な動機はほとんどと言っていいほど見られない。今後の学びにとって重要な基礎知識であることを、具体的に教示する必要があるだろう。講義の出席カードに、時々、「国家試験にはこう出る」として問題を載せているが、このような機会を多くして、受講意識を高めていきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は学生の反応を見ながら、反応の乏しい部分は繰り返し説明していった。しかし、ほとんど講義形式で進めたため、毎回の出席カードのコメントにバラつきがあった。来年度はディスカッションを取り入れた授業形態も考えたい。 福祉制度の授業では、中学・高校で学んだ知識の復習や福祉問題に関する話題について事前学習してくるため、シラバスの予習事項に沿ったワークシートを毎回準備した。にもかかわらず、1回30分程度の授業準備時間や復習時間が0回、1回が8割以上あった。講義中に当科目の事前の課題をしている人が見受けられたが、講義の最後に課題を回収し、講義中にペナルティーを設けなかったことも影響しているだろう。授業理解のために必要な学習について、学生に納得してもらうよう提示していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	この科目は看護学の基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても多数の問題が出題されている。学生は法律に対しての苦手意識があるが、科目の重要性を説明して主体的に学んでもらえる動機づけをしたい。また、授業のねらい、達成目標、評価基準を共有し、学生自らが学ぶ目標をもてるようにしていきたい。その結果として、「知識・理解」と事例に対応できる「思考・判断」の達成度が上がる事を目標としたい。 教材は、効果的なものを提示できるように、学生の意見を取り入れていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	山本 努

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代社会と家族	3	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	(1) 「現代社会と家族」という講義の性格から、「現代社会」および「家族」の基礎知識を学習できることに重点をおいた。 (2) そのために、テキストの購入を学生に義務づけた。これによって、上記の課題を自学自習出来るように思われる。 (3) くわえて、他にいくつかの複写資料を学生に配布して講義をおこなった。テキストの内容を補完し、授業の内容の理解を促進するものと考えている。 (4) 昨今の学生はパワーポイントなどの視覚的資料に親しんでいる。しかし、本講義では、「配布資料+テキスト+講義」という古典的方法で臨んだ。パワーポイントでは資料が手元に残らないためである。また、パワーポイントの資料を配付すると、そこにばかり目が行き、下を向いた学生が多くなり、それも好ましくないためでもある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	(1) 単位を落とした学生がいなかったのが、理由である。ただし、本講義の場合、「達成されたかどうか」の本質的な意味での判定は、短期的には非常に難しい。 (2) しかし、答案をみるかぎり、「あまりに不勉強」な学生はいない。その点からすれば、(1)の判断は一応、妥当と考えている。 (3) 本講義の試験は、テキストや資料やノートの持ち込みを認めている。そのため、それら持ち込み資料の類をまったく勉強(ないし準備)してこない学生は、回答できない問題になっている。ここからも、「あまりに不勉強」な学生はいないという(2)の判断は妥当と思われるのである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	(1) 本講義は看護学科の必修の授業であり、かつ、狭い意味での「看護(技術)」の授業ではない。つまり、看護学科学生の基礎的素養としての授業科目と考える。しかし、学生にはそのことの意味がやや理解されていないように思われた。 (2) 上記のような本講義の性格は、授業で一応、話しているのだが、充分には伝わっていなかった部分もあるように思われる。今後はさらに丁寧にこの点を話すように心がける必要があるかもしれない。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	(1) 大人数の大講義室での授業のため、声が聞こえにくいとの指摘があった。マイクの声は調整が難しい。学生に毎回、「マイクの声は聞こえますか」と聞いているのだが、やはり、聞き取りにくいということがあるようである。 (2) 複写資料を配ったが、授業の進行に応じて、段々枚数(種類)が増えてくる。しかし、これが一部少数の学生には煩雑で不評らしい。これについては、対応は悩ましい。というか、学生の側の「お客様」的な感覚はそれでいいのだろうかと思わざるを得ない。ただし、それはあくまで「一部少数」の学生の話であるが。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	(1) 「必修科目であり」、かつ、「狭い意味の看護技術ではない」という本講義の性格を学生に理解させるのが、来年度の最大の課題である。 (2) これは、看護のみならず、医学部あたりの授業でもそうであるが、狭い専門の科目以外にあまり関心を持たない学生が、おうおうにしているものである。そのような学生に本講義の面白さ、重要性を理解してさせることが目標となる。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	岡田 健一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
対人関係論	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	【授業への動機付け向上】本教科は必須教科である。授業評価アンケートの結果でも、「必須科目である」以外の受講動機は、すべて1割を切っている。しかし、「必修だから履修しなければいけない」という受け身の態度では、学習内容が深く身につくことは望めない。そのため、扱う題材を学生の日常生活に近い題材にしたり、学ぶことで生活がどのように変化するのか具体的に感じられるよう、授業の内容を工夫した。また、授業の中で、お互いの意見の中から新しい視点や考え方を学べる構造にすることで、対人関係の楽しさや、学ぶことの楽しさを実感し、授業への意欲が上がるようにした。 【集団作り】本授業は、1年生前期に配置されている授業である。それまでの高校生活から一変し、夢に向かう専門的な教育が受けられるという期待と、新しい集団に馴染めるかという大きな不安を抱えている時期である。この先4年間の学びを積み重ねていくための基盤作りとして、1) 学科の学生と知り合いになり、自分が落ち着けるグループを見つけれられること、2) 意見が違う場合でも喧嘩に発展せず、違いを楽しめるだけのコミュニケーションスキル・態度を身につけること、3) 人間関係を維持するために必要な情緒的安定を確保するスキルを身につけること、の3点を、授業で学んでもらうよう、工夫した。 【授業への参画】毎回の授業レポートに学生の意見、感想を書いてもらい、次の授業でクラス全体で共有したり、講師の意見を伝えたり。また、学生の意見に応じて、必要な補足や、授業計画の変更を行った。毎回そのやりとりをすることで、学生が積極的に授業に参加できるとともに、疑問点を解消できるよう努めた。授業評価アンケートでも、「学生が参加する機会」や「質問を受け付け、答える機会」は、高い得点になっており、学生にも伝わっていたようである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	【知識理解】授業で取り上げたワークを元に、自分の特徴を振り返って自己理解を深めたり、他人と関わる上で必要な人間関係上の知識や態度を身につけていった様子が、毎回の授業アンケートから感じられた。授業評価アンケートでも、「自分のことがよくわかった」、「人に対する考え方がわからなかったのでもとても助かった」、「違う考え方があるということを学んだ」と、自己理解や対人関係の理解、他者理解が深まったという感想が多数寄せられている。 【技能表現】授業の最終課題では、授業で学んだスキルや態度を、家族や友人、アルバイト先などで活用し、それまでとは違う人間関係を持てるようになったことが報告されていた。また、「毎回シャッフルしてグループワークを行う」という授業の進め方に、最初はきつと感じる学生も少なくなかったが、徐々に自分なりに挑戦し、グループの中で発言したり、受け入れられたりする体験を通し、積極的に他人に関わっていく態度を身につけて行ったことが、毎回のレポートから感じられた。授業評価アンケートでも、「コミュニケーション能力が上がった」、「人を傷つけない話し方を学べた」、「悩みの解消法が分かった」など、コミュニケーション能力や自分の情緒的安定を維持する能力が高まったという感想が多数寄せられている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護職として必要な対人理解や、自分の情緒のコントロールを身につけるとともに、この先4年間学びを深めていく学生集団づくりにも役立ったと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	〔授業内容〕現在の授業内容は、学生の興味関心に近く、概ねこのままで良いと思われる 〔私語への対策〕大学生生活にも慣れてきた授業後半は、前半に前回の授業の感想を紹介する部分で、私語が出てくることが多い。この点に関しては、「講師が感想を読み上げるのではなく、各自で読む時間をとる」、「すべての感想を扱わず、一部をピックアップしてコメントする」などの対策をとり、数年前より随分私語が低減している。それでも、授業評価アンケートで「ザワザワしてうるさい人がいるので、もっと注意をしていいと思った」のような授業の改善点が上がってきているので、さらなる工夫が必要だと思われる。「講師が学生を叱る」という形で私語を低減させることは、「力が強い立場にある者が、弱い立場にある者を、力で思い通りに動かす」ことになるため、看護師（患者から見れば圧倒的に力が強い立場の存在）を目指す学生にはその手は使いたくない。力を使わず以下に伝えるかという方向で、考えていきたい。 〔授業以外の学習量の確保〕授業評価アンケートによると、授業以外の時間での学習（準備・復習）はほとんどなされていないことが分かる。授業のテーマが「対人関係」であるので、日常生活の少なくない時間が、授業と関連する人との関わりに使われているはずである。授業以外の時間で人との関わりが、授業と関連するよう、授業内でさらなる意識付けをする必要があると思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	〔総括的評価〕 “「人付き合い」と「自分付き合い」について〇学びを深めていく”という授業の目標は、多くの学生にとって達成されたと思われる。 〔課題〕私語への対応、授業以外の学習量の確保が、今後の課題として残された。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、「必修科目であるための受講」であるため、資格取得希望者全員が受講していたと考えられる。事前の学科教員との打ち合わせで、人の生涯発達についての学びを基礎として、今後の授業の中で対象に対するアセスメントを行う際の考え方を学ぶことを確認しており、そのことを踏まえての授業準備を行った。また、スライドに写真素材を加えるなど、講義内容に沿った対象のイメージが浮かびやすいように配慮した。 授業を進めるにあたっては、学生が主体的に参加できるように、当初はなるべく学生の発言等も取り入れられるように計画していたが、内容量や座席の配置などの点から、ディスカッション等を取り入れることができなかった。授業意欲につながるように、授業時に配布したレジュメとその記録を評価に加えた。この点について学生によって差異はあったが、要点を押さえられていたのではないと思う。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は、平均80.4点（最高点95点、最低点52点、S-13人、A-45人、B-27人、C- 12人、D- 2人）である。58.6%の学生がSまたはAを取得していることから目標はやや達成されたと考えられる。 授業評価アンケートの到達度自己評価においても、「自分なりの目標を達成した」かについて、全員が「まあまあそうだと思う」「わりとそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択しており、学生たち自身も科目の目標を達成したと自覚していることがうかがえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「看護を学ぶための基礎」に位置付けられている。学生の授業評価アンケートの到達度自己評価においても、ほとんどの項目で「まあまあそうだと思う」以上の回答が得られている。また、自由記述においてもおおむね良好な意見が述べられている。これらの事から内容的妥当性には問題ないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は主にスライドを基本として教師からの説明が中心となった。授業の質については概ね良好な評価がなされたものの、授業時間以外で図書館を利用したり、情報利用をしたりする機会が少なくなっている。また、教室の後方で受講する学生も多く、受講態度にばらつきが見られた。初回授業時に試験時の持込み等についてアナウンスしたことで、受講への意欲に影響を及ぼしたと考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体的には、概ね授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。しかしながら、当該学科の科目担当が初めてであったため、学生への配慮、意欲の引き出し方が十分でなかったかもしれない。本科目が今後の学びにつながることでイメージできるように働きかけられるよう改善していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	村瀬 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護基礎数学	1	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 入学当初に、看護科の学生として必要最低限度の「計算力」を持っているかどうかの評価テストをしているが、その際に「計算力」についての自己分析や授業に対する要望・期待などについてのアンケート調査を実施している。その結果を重視して、学生の要望・期待に応えられるよう授業計画を立てて授業を行っている。特に、学ぶポイントを絞り、焦点がぼけないように努めている。 ② 学生の数学に対しての苦手意識が、それまでの数学の学習を妨げてきた大きな要因なので、学生の一人一人が単なる「学び直し」ではなく、大人の目線での理解に裏打ちされた知識や技術を新たに身につけていっているという実感を持てるように、またそのことが自信となるように努めている。 ③ 高校までの数学の授業の中で数値計算の速さ・正確さを求められてきたためだろうが、学生の殆どに複数の数値をデータとして概観・俯瞰することや、データとして見たときの傾向の分析・比較などをする感覚が身についていない。このため、授業では、複数の数値をいろいろな面から見て、目的に応じて自由に扱う実習（種々の計算）をしながら、学生自身が持っている単なる「単純計算の対象としての数値や数値計算」という固定観念をほぐすことに努めている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 入学当初に、「基礎計算力」を持っているかどうかの評価テストをし、その結果を詳細に分析を行っているが、その結果と期末試験との結果の比較がその根拠である。※この授業では評価テストでD段階、C段階の下位の学生は指定して受講するように指示をしているが(それ以上の段階の学生でも受講希望者は受け入れている)、D段階12名のうち9名が期末考査ではB段階以上になり、C段階の下位に属する16名のうち14名がB段階以上になった。 ② 到達度自己評価において「自分なりの目標を達成した」の項目の「かなりそうだと思う」～「まあまあそうだと思う」という肯定的な評価をした学生が40名中37名いること、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目の「かなりそうだと思う」～「まあまあそうだと思う」という肯定的な評価をした学生が40名中39名いることも根拠である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、国家試験のための計算スキルの習得はもちろん、看護学科での学びに必要な最低限の基礎計算力とそのための基礎知識・技術の習得を目的としている。 学生の数学に対する苦手意識や拒否感は長年に渡って算数や数学の授業を受けることで培われたものであり、学生が看護学科の専門科目の学びの中で出会う数学的知識や技術を要する局面で、ネガティブな姿勢になりがちなことは容易に想像できる。実際、入学時の「評価テスト」から、多くの学生が小学校や中学校で習得していなければならぬことがなされていないことが多くあることが分かるが、この欠陥・欠点を克服しなければ、多くの学生が、看護学科の種々の科目において、その内容を十分に習得できないことが連鎖的に出てくることが予想できる。 また、高校時代までその内容が上級になればなるほど抽象的なものとなっており、学生が数学の実用性を実感できなくなっていることから、数学を実用的に用いる感覚が身につくにつれておらず、従って実用的に用いようとする意欲が低い。 以上のようなことから、本科目の内容は、看護科入学初年時の前期に受講するのに妥当な内容であると思われる。このことは、学生の授業評価の指標の中の「受講動機」「担当教員への意見」の内容からも裏付けられている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度の授業は学生からのアンケート重視の観点から、学生が一番苦手であり、また強化したい分野である割合計算・濃度計算・単位を特に重点的に丁寧に進めた。そのために、例年に比べてこの分野の成果は上がったが、一方、後半になって授業時間が足りなくなり、テキストのやり残した部分が出てしまった。しかし、今年度の強化した部分は、学生にとって他科目の学習に是非とも必要なところであり、来年度は、シラパスを変更すると同時にテキストを改訂して、より効率的に授業を進めたい。 学生の意見として、「授業の課題意外に学習に取り組んでいない理由」の中に、「どのように取り組んだら良いのかわからなかった」「何をしたらよいかかわからなかった」というのがあるが、「授業内で全てしたから」「する必要を感じなかった」という意見も多いことから、これは本科目の授業を「授業内容は授業中に完了する」というコンセプトで行ったことが大きな理由だと思われる。しかし、来年度は少しでも学生が授業内容の広がりを実感でき、学生の自主的な授業内容の拡大が行えるように工夫をしていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度の実施した授業内容に対する達成状況は、全体的に、ほぼ目標通りであったと評価している。しかし、当初の予定に対し、時間の関係で授業で十分に扱えなかったところが出てしまい、その部分については改善しなければならないと考えている。 また、本科目が最終的に知識の理解と技術習得を目標としているだけに、どうしても授業の形態が講義型の解説と個人演習の繰り返しになりがちで、学生同士の教え合い、学び合いの時間を授業時間中に殆ど確保できなかった。学生の教え合いや学び合いこそが、知識や技術の定着に大きな役割を果たすだけに、これらの時間を、どう効果的に設けるかを工夫しなければならないと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎学習ゼミⅠ	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「必修科目」（100%）であり、学生に選択の余地はない。従って、学生にとって「資格取得に必要」（1.0%）とも「関心のある内容」（3.1%）とも考えにくく、また、「単位数を確保する」（6.1%）、「GPAをあげる」（2.0%）ことともつながりにくい。こうした学習準備状況をふまえて、初年次教育として重点を置いている点は、 1. 大学で主体的に学ぶための基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）を強化・鍛錬する有効な機会とする。 2. 社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チーム力）の育成・強化を意識しながら関わる。 3. グループ活動を通して、学生が自らを客観視したり、自身の在り方や行動を意識的に振り返る機会となるようにする。 4. 他者と良い関係を築くうえで必要となる自らの態度・姿勢・行動について、必要な行動変容につなげられるように支援する。 5. 大学での学習・生活スタイルの確立に向けて、学生が自ら問題解決を図る適切な手段・方法を見出せるように支援する。 以上が、基礎学習ゼミⅠに関わる教員間の共通認識であり、学修支援の方向性として大切に考えているところである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目の達成度評価は、授業貢献度：40%及び課題成果（学修ポートフォリオ・課題レポート）：60%による総合評価で行っている。最終的な成績の平均値は85.5±4.02点（最高93点、最低73点）で、1年生102名全員が履修を修了した。最終成績の内訳は、秀16名、優78名、良8名、可0名であった。 学生による授業評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（4.6）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（4.6）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（4.3）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」（4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（4.1）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（4.1）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（4.1）と、「職業選択の参考になった」（3.7）以外はいずれも高値で、これらの結果からは、本科目で「学生が達成すべき行動目標」は、全体を通しておおむね「達成された」と判断した。さらに、1年生102名中、優以上92.2%、良7.8%、可0%の結果からは、初年次教育の導入科目とした当該科目が果たすべき役割（受動から能動、主体的・積極的学習者への変換）＝「知識理解」「意欲関心」も「達成された」と考えた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科における初年次教育の一環として、看護系大学での学び方と学生生活の支援を目的とする「看護を学ぶための基礎」に位置づけられた科目である。「学生が達成すべき目標」には、そうした意図が十分反映されており、学生が期待される成果（1年生102名中、優以上が92.2%、良が7.8%、可0%）を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②D P、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は演習中心の科目であるため、筆記試験は実施せず、授業貢献度：40%、課題成果（学修ポートフォリオ及び課題レポート）：60%に基づく総合評価として評価を行った。科目履修後の学生の評価は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（4.6）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（4.6）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（4.3）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」（4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（4.1）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（4.1）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（4.1）と、いずれも高い値を示したことから、内容的に妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.8)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.7)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.7)、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.6)、「説明は理解しやすいものであった」(4.5)など、いずれもが高値であった。 1年生102名を対象に、教員10名がそれぞれ学生10～11名をゼミナール形式で担当し、講義とグループ討議を組み合わせた授業を展開した。講義は全8回中4回：①図書館蔵書検索・データベース及びインターネットによる文献検索方法の教示、②論証型レポートの書き方(×2回)、③「身近なメディアと情報倫理」に関する講義を行った。残り4回はグループ討議の時間とし、最終的には、前述①～③の講義やグループ討議の結果を踏まえた、複数の中からグループ毎にレポートテーマを選択し、論証型レポートを作成・提出することを課題とした。 自由記載には、「課題が大変」「時間がなかった」「授業課題が多かった」「課題や文献調べで精いっぱい」「課題で忙しかった」など、学習量の多さを訴えた意見が多かった。 大学で学ぶための基礎的スキルを修得させるために、毎回の授業に課題学習を取り入れ、さらに、事前・事後の準備(予習)や振り返り(復習)を求めた。学生にとっては、そうした働きかけが、教員が考える以上に負担感を感じさせる内容であったのかもしれない。反省する点である。全体的には「図書館の図書・雑誌の利用」(93.1%)、「学術データベースの検索・利用」(93.1%)、「インターネット・HPの利用」(90.2%)と、負担と感じながらも、期待される成果に繋げようと学生は努力したようである。次年度は、学生が自らの興味関心に基づいて主体的な学習行動がとれるように、レポートテーマの設定を含めて、基礎学習ゼミⅠの企画の見直しと改善を図りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備」をどのくらいしたかの質問に対して、「6回」33人、「4、5回」21人、「2、3回」23人、「1回」12人と、多い少ないの差はあるものの、クラスの87.3%が予習には取り組んでいた。同様に「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習」をどのくらいしたかの質問についても、「6回」44人、「4、5回」18人、「2、3回」13人、「1回」13人と、全体の86.3%の学生が復習に取り組んでいた。予復習に積極的に取り組むことは学習習慣を身につける上で好ましいことである。しかし、予復習を全くやっていない学生(予習0：13名、復習0：14名)も1割以上おり、この点は、今後、検討・改善が必要と考える。 予復習をやっていない理由は、「する必要がない」「余裕がない」「他の科目があった」「時間がなかった」との意見、また、「課題をすることで内容が理解できる」「課題が十分なものであった」「振り返りのプリントで十分」「ほとんどが課題として与えられる」「課題以外の学習がわからなかった」「何をすればよいかわからなかった」などの回答から、学生の主体性、積極性に基づく学習への取り組みという点では課題が残った。 担当教員への意見としては、特定ゼミ学生の記述が大半を占め、その多くは担当教員への信頼と称賛であった。全体としても、ゼミ担当教員－学生間の人間関係は良好に保たれていた。 次年度に向けての課題は、学習量の見直しと予復習を含めた主体的な学習習慣の確立を促すことと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①入学後最初の看護専門科目であり、受講動機は「関心のある内容である」の選択率は6.3%と低い（昨年度よりやや高い）ため、看護専門科目に対する初学者であることを考慮し、同世代の友人たちが「看護をどう捉えているのか」に関してインタビューさせ、その結果を発表させるなど身近なことから看護を考えさせるようにしている。また、看護に関連した新聞記事等を紹介し、関心をもってもらうようにした。 ②課題については授業前にレポート提出（レポート評価基準も提示）させ、その課題に関するグループ発表を行う形をとり、学生が事前に学習し理解したうえで発表を聞き意見交換できるようにしている。また、グループ発表については発表の評価（発表評価表に基づく）を聴衆である学生が行い、その結果を発表グループに返すようにした。回を追うごとに発表技術は向上してきている。 ③今年度から1年次から学習の習慣をつける目的で、学生にポートフォリオを作成させた。 ④昨年度中間点でテストをしてほしいという声を受け、8回目に小テスト（10点満点）を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績評価平均値は73点であり、再試対象は9名であり、最終的に再履修者は3名であった。80点以上は18名（18%）」であった。 到達度自己評価において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.4であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.3となっており、3回のレポート評価においてもほぼ全員がA段階であったことを勘案すると行動目標は達成したと考えられる。「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.2をはじめ、到達度自己評価は(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」平均値3.8を除き、すべて平均値4.0以上であった。 学習量の評価において30分以上の予習・復習を2・3回以上行った学生は半数以上となっており、図書館も半数以上が利用した結果となっている。学生の自由記述を見ると、小テストの勉強に取り組んだ、看護覚書を読んだ、ノートまとめなど書かれており、ポートフォリオの作成もいくらか功を奏したと考えられるが、今後も自己学習増に向けて取り組んでいきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・看護実践の基礎に位置し、学生が入学後初めて学ぶ看護専門科目であり、必修科目である。看護の初学者であることから、身近なことから、また新聞等の看護に関わる話題から考えさせる、またグループワークを取り入れ発表を行う等の工夫をし、学生も一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考えられる。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価において、「知識理解」（DP1）に関する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」4.0で高く、成績評価において再履修者が3名がいたものの平均73点であり、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」項目平均値4.3であり、また今年度からレポートの評価基準を明示したため、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」平均値4.2と昨年度より高くなり、他の3項目についても4.0以上であった。 途中で一度小テストをしてほしいとの声を昨年度受け、今年度から8回目に小テストを行った。学生の学習量の評価の自由記述欄に「小テストの勉強に取り組んだ」と9名の学生が記述しており、小テストが自発的学習を促し、中間地点での知識の整理・理解につながったと考えられる。 ただ、小テストに関する意見があった。小テスト（10点満点）を評価対象とすると学生に言った時期について、少なくとも小テスト実施前（1週前）の授業の中でインフォメーションを行っており、また小テストについては学生に自分の学習状況を確認させるために、学生に当てて答えさせながら自己採点をさせた。その際答えを書き直す学生がいたとの指摘があったため、今後は自己採点は無しとしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	入学後初めて学ぶ看護専門科目であり、看護全般に関する基礎的知識の理解については概ね達成できた。看護専門科目に関する初学者であることを考慮し、教授内容も厳選し、わかりやすくすることを心がけていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護技術論	1	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目の看護実践の基本にあたり、看護技術は、対象者の人権が尊重された上で、安全、安楽およびその自立を目指して提供されるものであり、科学的根拠に基づいて実施されるものであることを学ぶ科目である。 学生の準備状況は、大学に入学したばかりの学生であること、幅広い年代の方とのコミュニケーションをとる機会も少なく、生活体験や社会体験も少ない特徴を持つ。一方で、看護を学修する動機づけが高い学生が多い。そのため、コミュニケーションの単元では、自己理解のひとつの方法としてプロセスレコードを紹介し活用する課題を出している。看護において重要な他者との信頼関係の構築を目指して、授業以外の実践的な学習のひとつとしては、授業以外に実習室での自己学習や演習時の報告・連絡などの機会を通じて、他者への話し方や身だしなみの整え方などについて、できるだけ声掛けを行うようにしている。また、本年度は、ポートフォリオの作成を開講時にオリエンテーションし、タグをつけたり、プリントの整理をすることなどを含めて、学習環境の整えを自分で獲得することを試みた。 学生の受講動機としては、「必修科目である」ことを全員が選択している。講義・演習・早期看護実習と盛りだくさんではあるが、看護を学んでいる感覚を得やすい科目であるため、学生の動機づけは高い学生が多い。そのため、授業資料は、予習ができるように準備・配布し、授業の中に感性を育てる臨床での看護の面白さと資格取得に必要な国家試験での出題内容を単元の教授内容に合わせて紹介し、学生の学習意識を高めることを目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、73.2±7.8点で再試対象者は3名だった。再試験を受験した3名の平均得点は71.7点だった。最終的な評定の内訳は、秀0名、優23名、良54名、可25名、不可0名で、評価内容に対しては偏りがなく概ねバランスが取れていたのではないかと考えている。 目標別にみると、本科目は講義・演習・早期看護実習が含まれること、早期看護実習では患者の病院での療養生活や看護活動の実際を見ることで学習意欲を高めることが目標にあることから、実習については、事前学習、実習オリエンテーション、2日間の実習、成果発表を経て、最終的にはレポート評価としている。講義・演習で学習した必要知識を筆記試験で、演習での課題をレポート以外の提出分で評価し、全体を通しての学習参加度も加味して評価をした。授業に取り組む姿勢や演習課題の提出を守る学生がほとんどで真面目である。しかし、ポートフォリオを確認すると、出された課題以外の主体的自己学習の跡があまり見られず、高校までの学習の延長に在る可能性が高い。この時点で大学での学びができることを目標に置くのではなく、大学での学び方を知る学習機会として捉え、方策を考えていきたい。 学生による授業評価については、到達度自己評価で学びを深める意欲が平均4.6、中央値5.0と高いことは評価できると考えている。学生の自由記述にベッドメイキングの演習や国家試験の出題などについて関心を持っていたことが記述してあり、ねらいとする部分と学生個々が持つモチベーションの相乗効果が発揮されていると考えている。その学が意欲の継続をどう支援するかが今後の課題である。また、学術データベースを活用した図書館の利用者が21/101名おり、自己学習の中で自分で積極的に活用している学生が今後増えていくよう、サポートしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」のなかの看護実践の基本にあたる必修科目である。このことは、受講動機で全員が履修していること周知はできており、また、kaname.netなどの活用状況からも学生の認識は高い。 今後、講義のみならず、講義外での自己学習などのモチベーションが維持できるよう必要に応じて支援をしていきたい。また、シラバスの活用などを呼びかけ、予習や復習を積極的に行える学習環境作りも継続して行っていきたい。 内容的に妥当性は確保できていると考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価及び学生の到達度自己評価の両側面から見て、妥当であると考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目の5段階評価は、平均4.1～4.6と高い評価を受けた。理由として、初回講義時に、講義や演習で使用する資料を配付して、科目の全容を説明・認識させたこと、各回に実施する授業では授業目標を具体的に提示したことが挙げられる。一方で、この科目は、約100名の看護技術演習を含むため、その演習運営においては、学生自身の自覚と理解、行動が、学習成果に影響を及ぼすと考えている。生活体験や社会体験が少ない学生たちの背景を踏まえて、自主的な思考や行動を促せる接し方と初めてづくしとなる大学生活での不安へのサポートのバランスを常に意識した。学生の多くが、学習内容と学習目標をしっかりと意識して学習してくれた成果とも受け取っている。 授業評価の中での自由記載では、早期看護実習での施設側への説明について意見が聞かれた。複数施設での実習になり、実習前には実習指導者会議で説明しているものの、初回実習となる学生にとっては不安も大きいことから、より一層施設側との連携を意識して臨んでいきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、専門教育科目の看護実践の基本にあたる日常生活行動を自分では行えなくなった人への援助について学ぶ科目である。 成績評価および学生の到達度自己評価、普段の学生の表情や行動から、多くの学生は、看護の内容を学ぼうと積極的に学修をしていることがも確認できた。 今後も、意欲がさらに継続できるような教授内容にしていきたい。 また、学生の出欠状況や学習姿勢など気になることがあれば、アドバイザーとも連携をとって対応していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
診療関連技術論	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目では、静脈血採血や一次救命処置技術など、対象の人に対して侵襲を与える技術を教授する。そのため、医療者としての倫理感を高く持ち、やや緊張した雰囲気の中で演習できるように心がけた。 教授するほとんどの看護技術については、自宅やスマートフォンからでも視聴できるビデオ教材を準備しているので、事前にその単元の技術をビデオ視聴するように、オリエンテーションを実施して臨んだ。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	侵襲性のある看護技術を安全・安楽に提供できるように習得できたか否かが大切な目標となる。その点では、全学生を対象に技術チェックを行い、全員が2回目までで習得目標に到達した。知識理解に関しては、定期試験の素点平均が72点であり、分布も70点以上に約80%の学生が占めていた。最終的評価として「秀」の成績を8名出せた。6名は再試験の対象だったか、6名全員が60点以上を獲得できた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護師教育課程の指定規則にある科目であるので、資格取得には必須であるため、内容妥当性はあり、教育内容そのものを大きく変更することは困難である。学生の自由意見や生の声から、空き時間を見つけて技術について自主練習するする時間を確保するのが難しいと言われるため、到達度の自己評価も低下しやすいと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

演習としての目標は、大きく変化させる必要はないと考えている。ただ、全技術を演習で体験させるゆとりはないので、本学教員が手本となったビデオ教材を視聴させる仕組み作りが今後の課題と考える。
本演習では、その一次救命処置（BLS）技術を救命救急を専門とする臨床看護師を招いて、本学教員との共同演習で教授している。本学の4年生は、在学中に一次救命処置（BLS）技術の認定を獲得して就職する学生が多が、その認定を得るためにも役立っていると考え。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当該科目は「必修科目」(100%)であり、「資格取得に必要」(9.5%)な科目であるため、学生は好むと好まざるとにかかわらず履修せざるを得ない。従って、学生にとってもともと「関心のある内容」とは考えにくい(2.1%)。こうした準備状況にある学生の主体的学修を促すために、昨年度同様、日々大事と考え実践してきたことは、①看護学科独自のSNS (kaname.net) を活用した授業進行・授業内容の具体的なイメージ化、②学修到達目標とグループワークの進捗状況に照らした効果的な講義・グループワーク運営、③学生の主体的な学習参加と予/復習の推奨を目的に、授業で使用する教材(講義資料等)は全て事前にkaname.netにupし、授業中の資料配布は一切行わない、また学修を振り返るための「小テスト」の準備、④学生の理解度や質問等の有無を確認するための講義終了時のメッセージカードの提出、などである。④への応答は、個人に向けてはカードへのコメント記入、全体に向けては次週授業開始時に伝達・共有を図った。さらに、⑤学生個々の動機や意欲の高揚、終講までよい意味での緊張感を維持するために、学習成果発表を含め、積極的にグループ間ディスカッションの機会を設けた。また、⑥ 学生が自らの学修活動を客観視し、学修目標の達成状況を具体的に確認できるように、昨年度取り入れた「グループワーク振り返りシート」による観点別評価も継続・実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末筆記試験の成績の平均は、64.2±11.56点で、この結果は昨年度より5ポイント以上低かった。例年に倣い標準レベル(70点以上)を基準に作成した問題であったにもかかわらず、今回の筆記試験で標準レベルに達した者は26/98名、理想レベルに達したも者わずかに 9/98名、さらなる努力が求められる「可」レベルにある者が36/98名、筆記だけでは「不可」となる者が27/98名もあり、学修目標の達成状況は例年になく低かった。 科目としての最終評価は、筆記試験(50%)、個人学習(20%)、学習成果発表(10%)、記録および学習貢献度(20%)による総合評価としているため、総合評価のクラス平均は67.0±8.18点(最高87点、最低48点)で、98名中の合格者が87名、再試験該当者が11名の結果であった。なお、再試験該当者11名については、後日、筆記による再試験を実施した結果、再試験受験者全員が合格点に達したため、最終成績の内訳は、秀 0名、優 9名、良 30名、可 59名で、2年生 98名が当該科目の履修を修了したものの、筆記試験においては、知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)が、グループワークでの学習貢献度や学習成果発表の実績からは技能表現 (DP5)が、昨年度に比較して総体的に「低い」との印象をもった。 一方、授業評価アンケートの結果からは、学習到達度を「自分なりに目標を達成した」と自己評価した学生はクラスの98.9%(96/97名)を占めており、その内訳も「かなりそうだと思う」(20.6%)と「わりにそうだと思う」(54.6%)で全体の75%、「まあまあそうだと思う」(23.7%)を含めると98.9%で、学生は目標を「ほぼ達成できた」と評価している。ただ、2年生98名のうち、優以上は9.2%、良が30.6%、可が60.2%の評価結果からは、やはり今期当該科目の内容妥当性が確保されたとの判断は致しがたく、全体を通して「どちらともいえない」とした。 昨年度の実績を基に今期もあれこれ授業を工夫しながら進めたが、この結果からは、授業準備や授業展開を含めた課題が残り、次年度に向けて改善策の検討が必要と考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 「看護過程論」では、看護師の思考の軸となる「問題解決的思考」や「クリティカルシンキング」を学修し、看護実践の方法論としての「看護過程」展開の基本を学ぶ。2年次後期以降の「看護実践の応用・展開」の基盤となる科目であり、基礎と応用をつなぐという意味では「要」の位置にある。前年度3月「基礎看護学実習Ⅰ」の履修を通して、学生は臨床での看護実践を経て、看護師を目指す自らの強みや課題を明確化する。実習での気づきが、2年次前期からの各看護専門科目への興味関心へとつながり、学習動機を高めるきっかけとなることから、こうした学修準備状況をふまえた授業の工夫や課題の提示により、学生の主体的、積極的な学修への取り組みに繋げることができたと思う。CP, カリキュラムマップ上の位置づけに適した内容であった考えるが、成績評価の観点からは、全体を通して「やや達成されなかった」との判断であり、次年度に向けては、内容の妥当性について、自由記述の意見「時間がなかった」「課題に追われていた」「どうすればよいかわからなかった」を基に、何が、どこが、なぜ、を明らかにしたうえでの見直しと改善が必要と思われる。 ②DP, 行動目標から見ての内容妥当性 シラバスに記載した【知識理解】【思考判断】【関心意欲】【態度】【技能表現】それぞれの行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.3)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.1)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.1)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1)、と高い評価を得ており、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」とした内容は、学生は「自分なりの目標を達成した」(3.9)と捉えているように、内容的に概ね妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、学習到達目標と照らしつつ、グループワークの進捗状況に合わせた講義とグループワークの組み合わせで実施した。事前準備としての課題学習は、多くの学生にとっては、その後の自主学習を促すきっかけになったようで、図書館利用(81.4%)、インターネット利用(71.1%)がそれを裏付けた。 授業の質評価においては、いずれの項目も平均値は4以上であった。5項目中、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.4)が高く、「説明は理解しやすいものであった」(4.0)が低かった。全体として、学生の主体的学習を促そうとの教員側の意図や働きかけは、概ね達成できたと考えられる。 学生の意欲関心という点では、昨年以上に看護学科SNS〈kaname.net〉の利用者数は多かったが、昨年度と異なる点として、後になるほど繰り返し閲覧し学びを深めようと努力する学生が固定化していた。学生の中には、一度目の閲覧を途中放棄したまま、その後は一度も閲覧しなかった者もあり、これまでは見られない傾向として、クラスの特性が見てとれた。しかし、2年生全体の【意欲関心】【態度】としては、自由記述の「勉強したくて」「いろいろ調べたりした」「グループでの話し合いに向けて文献を探したり、内容をまとめたりした」にあるように、主体的・積極的に学ぶ姿勢・態度にもつながっていた。その一方で「どうすればよいかわからなかった」「時間がなかった」「課題でいっぱい」「する暇なし」に代表される「授業の課題以外の学習に取り組めていない」(33%)学生の存在も明らかとなり、今後、学習量、情報提供の仕方など、再検討が必要と考える。その他、自由記述には、教員側への学生の意見・要望として、①演習を担当する教員によって指導や教え方に違いがある、②課題の求め方や提出期限に統一性を欠く、③Kaname.netへのupを軸にペーパーレス体制をとったことへの不満、および④印刷物配布への要望などが挙がっていた。 ①については、定例会議での担当教員間の事前打ち合わせの他、担当教員全員が学生と同じく〈kaname.net〉により毎回の学習目標、授業内容、授業進行等をチェックしており、毎回の授業内容の把握・共有を行っている。にもかかわらず、今年度も上記①の意見が出されたということについては、もっと頻回に、もっと詳細に、もっと具体的指示を…ということなのか(?), 学生の意見に多少困惑するところもあって、当該科目を担当して9年目となる今期、今後どうしたものか…と思い悩むところである。 ②については、教員間での情報の周知徹底を図るとともに、指示の一本化、伝達内容・方法の再検討を行っていく。 ③印刷物の配布については、一応、担当教員間での検討は行いが、科目責任者としての個人的見解としては、学生に「学習者」としての自覚と主体的学習姿勢の獲得を目指してほしいとの意図から、ペーパーレス体制は来年度以降も継続したいと考えている。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題 達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	授業評価アンケートの結果より、科目履修後の学生は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.3)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.1)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.1)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1)、さらに「自分なりの目標を達成した」(3.9)としており、これらの結果からは、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」とした内容、即ち、知識理解、思考判断、技能表現は、成績評価の結果とは多少矛盾するものの、学生は「自分なりの目標を達成した」(3.9)と評価しており、「概ね達成された」と考える。 授業の質評価においても、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.4)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.1)のポイントが高かったことから、学生の主体的学修を促そうとの教員側の意図は、クラス全体で「概ね達成された」と判断する。 学生の意欲関心という点では、看護学科〈kaname.net〉の利用者数が昨年度を大きく上回ったことは評価できるが、授業準備、学習量、時間管理等については、学生の意欲関心を維持・向上させられるような質・量の検討と改善が必要であることがわかった。看護師の思考の基盤となる「看護過程」の理解と「問題解決法」の修得にむけて、今後も、授業方法等、創意工夫を図りながら、学生の主体的学修を支援していきたいと考える。 以上のまとめとして、クラス全体として、学習到達度を「自分なりに目標を達成した」と評価した学生は96/97名(98.9%)おり、その内訳は「かなりそうだと思う」(20.6%)と「わりにそうだと思う」(54.6%)で全体の75%、「まあまあそうだと思う」(23.7%)も含めると98.9%で、目標は「ほぼ達成できた」と思われる。但し、「全くそうでないと思う」(1.0%)とした学生の存在も忘れてはならず、今後も真摯に課題に取り組みたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生前期の科目である。学生の受講動機から「必修科目である」100.0%、「資格取得に必要である」が13.2%となっている。2015年度は11.4%であり、わずかに増加しているが、看護師課程では必要と考えている学生が少ない。「関心のある内容である」5.5%と少ないことからわかる。今年度は授業導入時にシラバスを使って意義の説明と具体的な教材の工夫を行ったが、今後さらに検討を加える必要がある。 ②毎時の授業終了後、授業の理解状況を示す授業コメントを学生に記入してもらい、それらの理解状況を踏まえ次回以降の講義内容を検討する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.2点であり、再試対象は6名であった。標準的レベルに達した学生が94.2%であった。内、理想的レベルに達したものは40.8%と、4割の学生が達成した。 目標別に見ると、知識理解に関しては70.0% (2015年度78.5%)、思考判断に関しては86.0% (71.8%)、意欲・関心に関しては93.7% (66.0%)、態度に関しては87.8% (81.9%)であった。前年度、本科目は保健師課程を志望する学生には関心が高いが、そうでない学生については、意欲関心が低い状況が伺えるため、学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、関心を持ち、理解し、思考判断できるよう、2016年度にむけて検討し、改善した結果、思考判断、意欲・関心についての獲得割合が増加した。しかし、知識・理解については、昨年度より減少している。毎時の授業コメントを通じて、学生に理解しにくい内容および学習方法についての検討を次年度取り組んでいきたい。 学生による授業評価においては、到達度自己評価においては、受講動機における関心の低さに比べ、全体的に関心を示している状況が伺え、いずれの項目も学科平均点に近い値である。また、担当教員への意見においては、保健師を想定する具体的な活動を講義内容に盛り込むことにより、学習への関心も増え、保健師課程選択への動機づけとなっているようである。 授業の質評価の項目において、「説明は理解しやすいものであった」かについては、(まったくそうでないと思う・少しそうでないと思う)と理解しづらしさを2015年度は18.2%の学生が感じていたが、今年度は9.5%に減少している。学生の理解および関心を深めるため、次年度の課題として検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、すべての項目が3.2から3.8 (2015年度3.2から3.6)であった。教員がねらいとしている授業参加への取り組みについて、半数以上の学生が理解しているが、まだ、学生全員が関心を向ける状況が作れていない。103名の学生が主体的に授業参加ができる授業方法の検討を必要とする。 シラバスの活用については、60%の学生が参考にすることがわかった。今後、さらにシラバスの活用を学生と一緒に検討していきたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉われがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置付けられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護の視点は、基盤となる科目である。学生にはカリキュラム上の位置づけの意味等授業開始時に理解を深めるかわかりがさらに必要と考えられる。科目の評価からは、94.2%の学生が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達していることから学生が達成すべき行動目標は概ね達成できたと考えられる。2015年度と同様のレベルでの達成状況となっている。 授業参加については、学生の主体的学習を進めるための課題の提示等、さらに改善を図っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉われがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置付けられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護の視点は、基盤となる科目である。学生にはカリキュラム上の位置づけの意味等授業開始時に理解を深めるかわかりがさらに必要と考えられる。科目の評価からは、94.2%の学生が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達していることから学生が達成すべき行動目標は概ね達成できたと考えられる。 授業参加については、学生の主体的学習を進めるための課題の提示等、さらに改善を図っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、100%が「必須科目である」ためで、関心のある内容と考えている学生は、3%であった。これらは毎年の傾向であるため、他人任せでなくより積極的に参加出来る少人数のグループを組むことを今年も実施した。本科目は、3年後期から始まる臨地実習に向けて看護実践のための知識・技術・態度の準備状況を整えるための科目である。これまでの知識を統合して患児家族の状態を判断し、看護計画をたてられるように、臨床状況を想定したペーパーペーシェントを使って、グループワークを中心に学習を進めていくようにした。今年度も病棟で学生たちが受け持つ可能性が高く国家試験にもよく出題されるような疾患を小児の各発達段階毎に選び、事例展開を行った。学生の準備状況としては、授業時間数が十分でないため、授業開始前までに事前学習として課題（担当する事例で使う基礎知識の復習、予習）をだして、グループワークの準備状況を整えさせた。また、事前学習の成果をみることで、グループ分けを行う際の参考にもなり、グループ活動が効果的にできるようなグループ編成を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は、82.8点(秀:10名、優:65名、良:19名、可:3名)であった。そのうち技術テストは、再試者が11名であったが、全員合格している。目標別にみると、思考判断77.8%、関心意欲81.4%、態度90%、技能表現90%と、パーセントとしては概ね達成状況にあると考えられる。技術テストに関しては、合格ラインを80点としているとしているため、最終評価は高くなっていると考えられるが、思考判断は7割台となっており、さらなる目標達成に向けて授業内容の工夫が必要と考えられる。技術演習については、今年度も昨年に引き続き4年生の看護総合演習で小児看護学を選択した学生6人にティーチングアシスタントを依頼した。3年生は、4年生が入ることで、教員のための時より積極的に質問をしたり、技術をみてもらっており、演習中に時間をもてあまし、私語をする学生が少なくなっている。しかし、その後の自己練習は学生によって差があるため、技術テストまでの練習期間が少し長くなるよう間隔を開けて行ってみたが、あまり効果はなくさらなる働きかけや工夫が必要である。 学生の自己評価では、各項目で98%以上の学生が肯定的な評価をしている。また、授業評価では、提出物の評価基準や説明のわかりやすさ、質問の受付と回答に十分でないと感じている学生が少数いるため、さらに授業の中で質問しやすい雰囲気や環境を整えていくことが必要である。また、グループワークでの成果の評価基準を細かく示すことが出来なかったため、次回は事前学習の課題提示時と授業開始時に評価基準の詳細がわかるよう提示していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。必須科目であり、関心を持って選択したのは3名であるが、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 思考判断、意欲関心、態度、技能表現ともに70%～90%以上であり、ある程度の目標は達成されており、妥当であったと考える。ただし、DPの中でも思考判断が70%と低いため、改善に向けての課題を残している。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には、問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループワークを通して目標を達成していく方法が主である。この方法は他人の考え方を知って視点を広げ学ぶというメリットもあるが、一方でグループメンバーに任せっぱなしになってしまい、自分ではよくわかっていなくても、グループとしては看護過程が出来上がっているという状況があるため、個人の理解度を明確に把握できない欠点もある。これについては、グループごとに授業終了後、ファイルを提出し、進行具合をチェックしたり、コメントを返すことでこちらの意図を各グループに伝えているが、このファイルのやり取り時あるいは、授業中に直接の確認を更に細かくやっていきたい。また、説明がわかりにくいとしている学生も数名いることから、複数の教員で担当している場合の、教員同士の共通理解や、学生からの質問を全体で把握する工夫も必要と考える。 また、予習・復習の時間をとっていない学生が2割いるというのは、グループワークの時間を授業枠内に何回か入れているため、その時間内に進行の早いグループは、自分たちの予定したところまで進んでいると判断し、あまり準備をしなくてもその時間内に終わることができていることも考えられる。次回からグループワークの時間配分や各回の到達目標の提示等についても検討していきたい。また、技術演習に際しても、復習をしてこない学生が少なくないため、準備状態を整える必要性をどのように伝え、積極的な取り組みができるようになるための工夫がさらに必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。目標は、全般的に一定の達成度を得たが、思考・判断領域に関しては課題を残した。ここでの課題は、事前学習では、特に紙面上形が整っていたとしても、その内容/文章の意味を理解していない学生が思った以上に多かったため、グループワークを進める中で確認をしていったが、引き続きこのやり方を続けることが必要と考える。 ・技術演習に関しては、実施方法や予習復習を促すための働きかけの工夫、練習時間の確保等、引き続き改善を図りたい ・グループワークを進める際に、理解が困難な内容については、引き続きより分かりやすい言葉や、具体例などを用い学生の理解を促していきたい。 ・グループワークの時間配分や進め方についても、学生と教員間で積極的な質問・意見交換が出来るような工夫など取り入れたい。 ・提出物の評価については、より具体的な評価基準の提示を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 2年生の母性看護方法論に引き続き、3年生後期から行われる各論実習に必要な母性看護技術やウエルネス診断による看護過程の方法を習得することを意図して看護過程演習と技術演習を講義に取り入れた。 ② 昨年同様に他領域からの課題の重複を配慮して講義内に個人ワークの時間を設け、教員は常時教室内に待機し質問などに対応できるようにした。 ③ 看護過程の演習において、「収集すべき情報やアセスメントの方法」についての理解が難しいようであったため、周産期各期で情報の内容及びアセスメントの具体的内容を示し、考え方の理解を図った。また、可能な限り教員を配置し、質疑応答の機会を設けた。今回、これについてシラバスを修正した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77点であり、再試対象者は4名であった。 達成状況は知識理解・思考判断を併せて75%であり意欲関心・技能表現をあわせて80%であった。前者は事例を通して、症状や生理的変化の根拠や対象者の状況に対し必要な看護ケアを問うものであり、後者は人形を使った沐浴技術試験であったが、前者の理解が十分でなかった。 学生による授業評価では、25%の学生は説明がわかりにくいと感じており、また15%の学生は教員が待機していたものの質問の機会が作られていないと感じていたことから、講義の方法について検討をしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「看護実践の応用・展開」に属し、周産期に属する対象者に必要なケアを提供する能力を育成するための必須科目である。学生は一定の成績を収めていることから内容的には妥当性であると考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①母性看護学概論や母性看護方法論については既習しているといってもアセスメントを行うなかで基準値や基本的な知識に関する見直し作業は不可欠であり、不明な点も新たに出てくるであろうと予測できた。さらに、他領域の課題を多く抱えていることから、まとめの時間を確保し教員が質問等に迅速に対応できる環境を整えることで看護過程のまとめ作業も効果的に進むと考えて自己学習の時間を意図的に設けた。しかし、一部の学生からはその効果を疑問視する意見も出されていることから、自己学習中心で組み立てていた講義内容については次年度の課題としたい。 ②アンケートより、自己学習時間を有効に活用できなかった学生がおり、それらの学生に関する教員の対応について指摘されていた。教員の対応も今後検討していくとともに、学生が自主的に取り組める環境を工夫していきたい。一方、技術試験については、ほぼ全員が自己学習に取り組んでいた。これは、練習時間の確保や評価ポイントを提示したことで学生が試験にむけた取り組みがしやすかったと思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「関心のある内容である」という点については4.4%と低い結果がみられている。本科目で学習する看護過程演習や技術演習は既習の看護過程・母性看護学概論及び母性看護方法論で学んだ知識を活用して取り組んでいかなければならないため、既習の振り返りが重要である。そのためには、関心を持って臨んで欲しいと考えることから、2年生の講義から本科目との関連性を伝えて意識付けを行い、母性看護学の知識をもって臨めるように、看護過程演習の進め方や学生が興味を持って自主的に学習に取り組めるよう引き続き講義内容を検討していく予定である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門教育科目である成人・老年看護学方法論の導入科目として、学生に本科目の位置づけを示し、青年期から老年期にある対象の発達段階の特徴、社会との関連、医療・保健施策、疾患の特徴、成人・老年期の看護の特徴、関連活用理論を俯瞰的にとらえられるように意識し教授した。内容が広範囲にわたり、抽象的な理論が含まれるため、毎回の授業では「ねらい」を具体的に示した。授業では学生の意識をできるだけ授業内容に引き付けるため既習の科目や保健統計に関することは学生に発問しながら講義を進めた。対象者とのコミュニケーションについては具体的なイメージが抱けるよう事例を提供した。抽象的な理論や概念の理解を促すため身近な具体例を用いて解説した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は63点、最高点は85点であった。内容が広範囲であることも影響し再試験対象者は30名と多かった。再試験の結果26名は標準的レベルに達することが出来た。学生の到達自己評価では97%が「まあまあそうだ」以上の肯定的な評価をしており、2.3%は不十分としている。授業の過程で小テストや発問などで学生の理解度を把握するように取り組んだが、さらなる工夫が必要である。観点別達成度では、「知識理解」が64%、「思考判断」67%であった。重点を課した「知識理解」が定値であることは学生の理解度の把握、試験の内容等も検討を要する。以上のことから、改善の余地を残しているが全体的には一定の成果が得られており教育目標は達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、必須科目である。成人期・老年期の具体的方法を学ぶための導入科目であり、国家試験への対応として欠くことのできない科目である。受講動機として資格取得に必要なものであるが5人、「関心のある内容である」が2名と少なく、必須科目であること以外の特別な動機は把握できなかった。最終成績では一定の結果を得ていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 本科目の行動目標として①成人期・老年期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健。医療、福祉システムの概要、④成人期・老年期の健康障害の特徴、⑤成人期・老年期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期老年期に活用できる理論・モデル、⑦加齢による心身の変化に対応した生活機能、援助の意義と方法をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。これを基に達成度を見たところ「知識理解」は64%、「思考判断」は67%であった。重点を課している「知識判断」が64%であり、今後知識・理解を深めるための課題が残ったが、目標は概ね達成されており妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は予習して臨めるように、単元ごと事前に資料を配布した。課題は達成度評価で示したように自己評価では達成度が高いものの、「知識理解」が十分ではなく、小テストによる理解度の把握にとどまらず興味・関心を抱き、意欲の向上に向けた更なる学生への取り組みが必要である。授業の質評価では各項目の平均値が3.4～3.7であった。昨年に比べ良くなっているものの上方移動する努力が必要である。また、学習量の評価では予習・復習とも（0）と答えた学生が約4割程度いる。また授業の記録をとっていない学生が7名いるなど、学習を促すための働きかけが不足していたと考える。学生には後期の成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護方法論につながる科目だということを強調し、方向性を示しながら具体的な内容について調整を行い次年度の講義に臨みたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は専門教育科目の成人期・老年期看護学の導入科目である。最終的な成績や観点別の到達度とも一定の成果をえた。また、97%の学生が到達度自己評価で肯定的な評価をしていることから、教育目標はほぼ達成できたと考える。ただし重点としている「知識理解」「思考判断」が70%に満たない状況にあり課題を残した。後期にある各論で強化していく必要がある。次年度は授業の準備性を高め、学生の思考の方向性を把握しながら授業に臨みたい。また、概論は抽象的な概念を解説するため学生にわかりやすい講義が出来るよう内容の検討も行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リハビリテーション看護学	3	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、3年次前期科目で、運動器、脳神経、呼吸器、循環器のリハビリテーションを中心に構成している。既習の形態機能学、疾病論、成人看護方法論（急性期・慢性期）、老年看護方法論と関連する科目である。そのため、既習の科目を想起させながら講義を展開した。また、他の専門職との連携の必要性と専門性を学ぶ機会とするために、理学療法士や嚥下・摂食看護認定看護師の外部講師による技術演習を取り入れた。運動器、脳神経などと範囲が広いため、各セクションが終了毎にミニテストを行い、知識の定着の確認を行った。 「必修科目である」98.9%と最も多く、他は「資格取得に必要である」7.6%、「単位数を確保する」2.2%、「関心のある内容である」は1.1%であり、昨年度とほぼ変わらない傾向であった。本科目は必修科目であり、3年次後期からの実習に向けて取得不可欠な科目であるため、致し方ないと考える。3年前期は、様々な科目の看護過程演習が重なるため、オリエンテーション時に他の科目との調整を行う必要性の説明を行った。演習後のレポートを課しているが、「図書館を利用しなかった」54名と半数以上が利用していない状況であった。図書館利用につながるような課題の提示を行い学習する姿勢を育んでいきたいと考える。「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備」「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習」0回の学生がそれぞれ36名、49名おり、昨年度より増加している。他科目の課題が多いと思われるが、予習復習を行うための工夫を行いたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は99名が履修を行った。定期試験平均値は、74.0（±14.1）点であり、再試対象者は、15名で、13名は合格した。ほぼ全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（80点以上）は、35名であった。そのうち秀は、10名であった。 目標別にみると、「知識理解」75.5%、「思考判断」73.6%、「意欲関心」88.2%、であった。「知識理解」や「思考判断」は定期試験で評価を行った。標準偏差をみても、理解している学生と不十分な学生の学力差がある。特に、例年運動器や脳神経のリハビリテーションの看護の理解が難しいようである。そのため、昨年度、技術演習と講義内容の重複の整理を行い、脳神経・運動器の時間にあてて構成を行ったが今後も検討が必要である。「意欲関心」は技術演習で評価を行い、昨年度に比べて演習中に私語をする学生がおり注意を要したため、昨年度より評価点が悪い結果となった。演習を外部講師とともにに行っているため、互いに指導を行っていききたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」に位置している科目で、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の平均点から考え、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、「関心意欲」は80%超えていたが、「知識理解」「思考判断」は80%に満たなかった。その中で、わずかであるが「思考判断」の達成度が低かった。定期試験において、国家試験レベルの状況設定問題で「思考判断」を評価したが、基本的な理解の不足のために解答できなかった可能性がある。基礎的知識と応用力を付けるために講義の工夫を行っていききたい。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、すべての項目で「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」で約9割を占めており、平均値も3.3から3.4であった。 「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」6人が「少しそうでないと思う」と回答していた。2つの技術演習を講義途中で入れているが、グループ間の話し合いが持てるようにしていきたい。 先述したように、3年次生は多くの演習科目が重なっているため、なるべく課題を減らした構成にしている。技術演習後の課題を課しているが、図書館利用は4割活用している現状である。課題テーマを検討して、図書館などを利用し、課題内容を深めることができる課題にしたいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね目標は達成できたと考え、運動器・脳神経系の内容理解について個人差が大きく、特に思考判断については今後の課題となった。 先述したように、3年次生は多くの演習科目が重なるため、予習復習を行うような課題提示が難しい状況である。そのため、各セッション終了後にミニテストを継続し、重要な事項の知識定着の確認を行っていきたい。 以上のことから、既習の知識にもどることができるような講義工夫、特に運動器・脳神経系の講義内容の工夫、各セッション終了後のミニテストを行い知識の定着の確認を継続していきたい。今後とも、学生の意見を取り入れていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、既習の専門基礎科目、看護基礎科目、成人・老年看護方法論などの知識を活用する応用科目である。内容は模擬患者事例を用いた看護過程と関連技術を柱としている。看護過程演習では、疾病・検査・治療、発達課題など総合的に関連づけながら看護を展開できることを目標に、個人課題をベースとしたグループワークを行い、個々の学生の学習促進と、グループ間での学びの共有を図った。また、患者を全人的に捉えるために、独自に作成した「ゴードンの11パターンに基づく情報分析ガイド」を用いて患者を捉える視点が理解できるように、グループワークの機会や提出された個人ファイル・グループファイルを通して、きめ細かく指導を行った。技術演習では、根拠のある看護援助が行えるよう、既習の知識と結び付けながら解説し、援助技術の意味を考えながら実践できるように指導した。学生評価の自由記載に、課題が多いことを述べていた。本科目は、3年次後期からの実習に備えての科目であり、成人期、老年期の疾病を持った患者の看護展開の思考過程を修得する必要がある。負担軽減についての検討も必要であるが、思考過程のトレーニングとして最低限の課題であるため、科目理解を深めることが必要である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.6 (SD±6) 点であり、再試験対象者は1名であった。再試の結果、全員が標準的レベルに達した。理想的レベル (80点以上) に達したものは48名であった。目標別に達成度をみると、「知識理解」85.9%、「思考判断」68.4%、「関心意欲」88.1%、「態度」87%、「技能表現」平均86.9%であった。全体的に、真面目にグループワークに取り組み、提出物も期限通りに提出することができていた。学生の到達度自己評価では、95%以上の学生は肯定的な評価を行っており、一定の成績を収めていることから、教育目標は達成されたと考える。また約7割の学生は、学習量も確保できており、図書やデータベースを利用して学習行動をとっていた。達成できた理由として、グループが5～6名であり、適切な人数であったことやグループダイナミクスが効果的に働いたことなどが考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、成人期、老年期の発達課題と疾病による日常生活の障害に対する看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は3名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識理解」「関心意欲」「態度」「技能表現」は80%を超えており、「思考判断」68.4%であった。本科目の主要な要素である看護過程の展開は、模擬患者の健康状況から看護診断をし、看護計画の立案・実施・評価を行う演習である。その過程は思考・判断を行いながら展開する内容であることから、「思考判断」が68.4%に関しては、もっと高い水準を期待したい。全体的には、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.7から3.8であり、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が他の項目に比べ3.6と高く、グループワークの成果であると考えられる。 看護過程演習は、1グループ5～6で17グループで構成し、2～3名の教員が、3～4グループを担当し指導を行った。授業開講前に教員間の指導の統一を図るため、事例検討を行い、共通認識できるようにした。しかし、学生の自由記載に、1名ではあるが、「統一して教えて欲しい」という要望があった。今後は、演習前の検討に加え、演習途中でも教員間の情報交換を行い、調整を行う必要がある。 今年度は急性期の事例の看護過程を中心に進め、慢性期の事例を応用とした。学生が理解し易い順序ではあったが、今後は、慢性期に移行する時の準備学習について解説を加えるとさらに学生の自主学習を強めることが期待できると思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践・応用」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えているが、個人差が大きく、思考判断の68.4%については検討の余地を残した。また、課題が多いという意見が聞かれたが3年次後期からの実習に実際に応用していく科目であり、看護師国家試験に関連する科目であることを伝えていきたい。学生の受講動機には、「資格取得に必要である」は7.1%と低く、今後は科目の重要性についても伝えていく必要がある。また、教員間の共通認識の徹底および課題の多さに関しては同時開講中の他の科目との調整も考慮するなど、学生の意見を大切にしたい。
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かかわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業を展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。 ②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った ③これまでの実習における学生指導を振り返り、看護過程の記録用紙の改善に取り組み、その記録用紙を実際に使って演習を進めた。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。 ④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた ⑤今年度、初めての試みで実習病院の指導者に演習の一部に参加していただき、学生に精神疾患を持つ人のイメージがしやすいように助言してもらった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は69.6 (±11.9) 点であり、再試対象は22名であった。51%が標準的レベルに達したが、理想的レベル (概ね80点以上を目標) に達したものは26名であり、半数以上がこのレベルに達するとよいと思われる。成績の内訳は、Sが5.1%、Aが21.4%、Bが25.5%、Cが24.4%、Dが23.5%であった。 目標別に見ると、思考判断に関しては65%、意欲関心に関する問題は70%、態度に関しては70%、技能・表現に関しては70%であった。精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。 学生による授業評価では、技能表現における自己評価が最も高かった。実習ではコミュニケーション力や表現力が求められるため、グループワークを中心に発表の機会を多く取り入れた結果であると考ええる。課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用率もよく60%の学生が利用していた。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が20%以上いる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生ははじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②D P、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度がやや低かったが、提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで主に進めたことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.4で他の項目より少し低めであった。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開しているが、疾患の理解が難しいため事例の工夫等を重ね、わかりやすい解説にしていきたい。その他の項目の平均点は、3.7～4.0で概ねよかった。特に「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点は、4.0で高い評価であった。グループワーク中心の演習で、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションもできたので参加型の授業ができた。 学生の意見として、課題が多くて余裕がないという意見が出ているが、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。実習病院の指導者さんに一部演習に参加していただいたことは、精神疾患を持つ患者の状況がイメージしやすいと好評であった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかなくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。図書館の利用率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われる。次年度は、個別に知識の定着が図れるように工夫しつつ、さらに効果的なグループダイナミクスが発揮できるように授業を進めたい。学生の意見としては、課題が多いことを苦痛に感じているが、実習と国家試験のことを考えると簡単に少なくすることも躊躇される。学生の状況を見ながら進めていきたい。臨地実習への準備および国家試験対策としての知識の整理、思考判断ができるよう、内容の整理を行い、来年度に向けた改善を進めたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	村山 由起子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学	3	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①救急・クリティカルケア看護学は、生命の危機的状況にあるすべての患者への救命治療が円滑に行われるように、呼吸・循環・代謝管理を中心とした全身管理に対する看護のスキルを学習する科目である。さらに、重度の急性機能障害に陥っている患者及び家族に対して、倫理性や精神面での援助についても学習する科目である。学生は、生命の危機的状況にある患者がケアを受ける集中治療室をなかなか想起することが難しいことからDVDや写真などを取り入れ、集中治療が行われている「場」について認識を深めさせ、次に患者家族についての心理的特徴や求められる看護について理解できるように授業の進度を工夫した。そのうえで、形態機能や疾病論を振り返らせ、呼吸・循環障害に対するアセスメントと必要なケアについて解説することで、より理解が深まるように工夫した。 ②救急・クリティカルケア看護学に対する学生の受講動機では、「必修科目である」が100%であった。このほか微少であるが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などが動機として挙げた。 ③今年度、講義の中盤に、集中ケア認定看護師の講義を2コマ挿入した結果、救急・クリティカルケア看護が提供される環境やチーム医療、安全管理、感染予防などについて興味関心を高めることができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は、77.7点であり、再試験の対象者はいなかった。最高点が93点、最低点が61点であった。101名全員が標準的レベルには達したが、理想的レベル(概ね80点以上)に達した学生は43名(42.6%)であった。目標別にみると、知識理解に関しては83.8%、思考判断については74.4%、意欲関心については70%であった。昨年に比較すると、知識理解4.8%、思考判断4.4%上がっている。特に、知識理解は昨年に比べると再試験対象者がいなかったことなどから良い結果に繋げることができた。学生は講義に対して、真面目に熱心に取り組む姿勢がみられ、目標達成に反映された。意欲関心については、昨年同様70%であったことから、意欲関心が高まるように教育目標及び授業の内容について検討を重ねたい。 ②学生による授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点、意欲関心の観点において、あまり差がないことが示された。 ③情報利用については、大半の学生がシラバスの記載を参考にしていたが、そのうえであらかじめ授業の計画を立てて臨んだ学生は30名程度であったことから、授業開始時のオリエンテーションの充実を図っていく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、2年次後期に実施される「成人急性期看護方法論」の科目を発展させたものであり、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の結果から、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、知識理解83.8%、思考判断74.4%、意欲関心70%であった。この結果から、生命の危機的状況にある患者・家族について、身体的・心理的・社会的側面を理解したうえで、思考判断、興味関心に繋げることができており、内容的には妥当であったと思われる。学生は、今までの実習から重症度の高いクリティカルな状況にある患者を想起する体験に乏しいことから、集中治療・看護に関して視覚に訴えた内容を精選して提供していきたい。最終的な評価としては、平均点が、77.7点であり、内容的には妥当意であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価規準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」の項目については、学生全員が「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」と肯定的な回答をしており、平均値も3.5～3.7と昨年より改善した結果が得られた。ただ、「授業中に、自分の意見をまとめたり、話しあう、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の項目に「少しそうでない」との回答もあり、平均値が3.3であった。この点について、次年度は学生が自分の意見を言える機会や発表の機会を設け、学生が参加していると実感できるように授業を目指したい。 本授業は、3名の教員によるオムニバスであり、それぞれの専門性に合わせて授業展開を行っている。今年度は、授業内容について十分に調整した結果、昨年度の課題を改善できた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられている。行動目標については、概ね達成できたと思われるが、昨年同様個人差が大きかった。知識理解、思考判断については、目標達成度が好転したが、興味関心の達成度については、課題を残した。 また、今年度、受講動機の「資格取得に必要である」の項目について若干の増加は見られたが、本科目が成人急性期看護方法論の科目をさらに発展させたものであり、看護師国家試験に関連する必修科目であることから、来年度に向けてシラバス等の改善を図りたい。 授業過程を振り返ってみたとき、倫理に関する事例を用いてレポート作成をさせたことにより、思考判断、興味関心を高めることに繋がったが、クリティカルな状況にある患者・家族に対するインフォームドコンセント、リビングウィルなど、学生自らが意見を整理して述べることは難しかったことから、来年度授業展開の工夫が必要であると思われる。 さらに、救急・クリティカルケア看護学は、4年次後期に開講される救急・クリティカルケア看護学演習の基盤になるため、興味関心を高められる授業内容の工夫を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
緩和・終末期看護学	3	前期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目として看護実践の展開・応用にあたる科目であり、既修のすべての科目を基盤にしている。すべての発達段階の人々を対象に、がん・緩和・終末期看護という独自の知識・思考を新たに学ぶ科目である。がん看護においては、3年次後期からの実習に直接的に活用できる知識であり、臨床での事例や最新の治療、具体的な看護方法などを組み込みながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解を目指してわかりやすい解説を意識した。また、理解の促進および関心を高めるために、講義終了時に質問や感想を自由に記述してもらい、次の講義の初めに応答するように工夫した。緩和・終末期看護において学生は「死」のイメージを「暗く怖いもの」として受け止めており、死は誰にでも訪れる身近なものであることを解説し、死生観が深まるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は70.5点、理想的レベル(80点以上)に達した者は20名で、再試験の対象者は9名であった。再試験の結果、標準的レベルに達したものは7名で2名は達成できなかった。目標別達成度では、「思考判断」「意欲関心」「態度」は80%を超えていたが、最も重点を課している「知識理解」は67%と理想的な達成度には到らなかった。終末期看護やがん治療に関する特殊性、およびそれに関する看護は特異な領域でもあり、十分な理解をもたらすに至らなかったと考えられ、今後、教授方法の検討が必要と考える。到達度自己評価では、ほとんどの項目において97%程度の達成を示し学生は肯定的な評価であった。しかし、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が達成できていないと評価している学生はそれぞれ12%、7%おり、これは座学の講義スタイルによるものと考ええる。到達度自己評価では、ほとんどの項目は97%程度の学生は肯定的な評価であった。しかし、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が達成できていないと評価している学生はそれぞれ12%、7%おり、これは座学の講義スタイルによるものと考ええる。科目の性質上、実歳の技術演習を取り入れることは困難だが、意見交換や発表の場を設けるよう工夫が必要である。以上を総合的に判断すると、授業への取り組みに課題を残しているが教育目標は概ね達成できている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は5名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目の行動目標として①がん治療における看護援助②終末期にある患者とその家族の特徴③緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助④緩和・終末期医療におけるチーム医療の在り方⑤死をめぐる倫理的課題⑥小児の緩和・終末期医療と看護をあげ、これらを述べることが出来るとしている。最も重点を課している「知識理解」が67%であり、今後、知識・理解を高めるための課題が残ったが、目標は概ね達成されており妥当であったと考える。 ③まとめ
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前述の「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」を除き、ほとんどの学生（0～2名）が学習目標を達成できたと自己評価していた。学生の授業の質評価の平均値は3.2～3.3であった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は他の項目と比較してやや低い評価であったことから、ディスカッションや発表の場というような学生の思考を活性化させるような方法を積極的に盛り込んでいく必要があり、今後の課題と考える。また、本年度は質問を積極的に受け、毎回応答していくことを取り入れたが、否定的評価も7%程度見られており更なる工夫が必要である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目の応用・展開科目ではあるが、新たな概念や思考、難解な治療方法とその対応などを含む科目である。目標は全般的に一定の達成度を得たが、平均点および目標の「知識理解」は楽観できない評価であり、課題を残した。学生の思考を活性化させるような教育上の工夫が必要である。学生・教員間での意見交換ができる機会（ディスカッション、発表、質問など）を積極的に講義内に組み込むことや予習・復習の促進や関心を高めることにつながるような課題を課すことも検討していく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機についてを授業評価からみると、「必修科目である」を100%（全員）があげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のは2.4%であった。これまで慣れ親しんだ病院内の看護でない在宅の看護であるため、関心を示す材料が必要であることが伺えた。このことは、学生がこれまで病院施設内看護の経験しかないため、療養者の自宅で展開される看護をイメージすることは難しいのではないかと予測していた。そのため、在宅看護学の講義では、実習施設と療養者家族にお願いして写真を撮らせていただき、それらを講義の媒体にして在宅看護のイメージをつかみ、興味をもつように準備した。また、毎回ミニ演習を作成して、ある状況での看護を学生個々で考え、看護の方向性をを導き出し、興味をもって自ら調べてもらえるようにしていた。 しかし、30分以上の予習、復習を全くしていない学生が4割あったことは残念である。学生が自ら学習するような興味関心をもってもらう展開を考えたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の結果、平均点71.1点（標準偏差9.41点）であり、再試験対象者は11名であった。成績の内訳は、秀 2名、優 18名、良 39名、可 40名、不可 0名であった。 期末テスト問題を作成する際、平均点を70点台になるようにしている。テストでは記憶だけでは回答できないように、事例を使って問う問題があるが、その部分の回答に差が見られた。授業内で解説し、テスト直前にも解説した内容あったが、テストで回答できない学生があった。一斉講義で受講者全員に理解させることのむずかしさを感じた。時間外に質問に来た学生は高得点を得ているので、自主的に質問に来る意欲をもたせたい。 また、この科目だけでは難しいが、○×を選択する思考過程を、臨機応変に対応できる思考過程に変換させる工夫をしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP1：知識・理解、DP2：思考・判断、を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。各看護学領域の既存の知識をベースに、在宅看護ならではの知識を積み、思考を発展させる科目であるため、学生にとっては面倒な科目かもしれない。 しかし、図書館の図書や雑誌を利用した学生が6割以上、学術データベースを使った学生が半数近くおり、専門書や最新のデータをみて学習スタイルで臨んでくれたのは、さすがに3年生だと感心した。 到達度自己評価の中央値がすべて3.0点であることは、学生が達成感を得られにくい授業展開であった可能性があり、今後見直していきたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	在宅看護の対象は、あらゆるライフステージの人で、かつ、あらゆる疾患を持つ人である。既習の看護学の知識を使うことが必要であるため、予習・復習を実施してほしいと考えている。「授業に参加するために30分以上の準備をしたか」で、0回と1回が半数を占めていた。復習についても同様であった。到達度の自己評価で、「的確に判断する力を得ることができた」かどうかでは「まあまあそうだと思う」が6割、「わりにそうだと思う」2割にとどまっている。課題の内容、講義形式の授業方法を再考して、効率よい授業展開をしていきたい。自主学習が難しい分野は課題として提示する方法もあるが、一方で「最後まで課題を出しすぎる」といった意見もある。自発的に学習できる雰囲気はどう作っていくか、今後の課題である。 毎回、ミニ演習を作成して思考させ、その内容を次の授業で解説した。ミニ演習の目的は、状況に応じて思考することとともに、看護に正解はないことを実感してもらうことにあった。「説明がわかりにくい」「正解だけを配布してほしい」「マニュアルを配布して欲しい」との要望があるが、学生が思考することの意義を伝えたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「看護実践の統合」に位置する。つまり、各看護学の知識を使って「統合」する科目であるため、在宅看護学の授業だけでわかろうとすると無理がある。そのため、授業ではワークシートを作成し、覚えることより考えることを中心にしていた。ワークシートで得た記述は、次の授業の導入に使いながら説明していった。また、すべてに答えがあるわけではなく、複数の答えが存在することもある。授業評価の自由記載に「ちゃんと説明してほしい」「漠然としてよくわからない」といった記載があるが、明確な回答がない科目の特徴からくる不安とも言える。諸状況によって様々な対応が考えられる場合は、「答えはない」とした上で、コメントするようにしていきたい。 最初の授業でシラバスを配布し、単元が変わる時には確認を促したが、参考にしたと答えた学生は半数以下であった。シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度は、在宅看護学演習のみ再履修者があったため、同時開講である在宅看護学の講義から流れを得て展開することができなかった。そのため、在宅看護学演習は在宅看護学の授業進行となるべく沿うように、全15回を3つ（①在宅介護についてのディベート、②地域包括ケア、③在宅療養者の看護過程）に区切って展開した。シラバスの記載を参考にした学生は57%、「あらかじめ授業の計画を立てた」学生は21%であった。授業進行を単純にしたことで、昨年の学生よりもシラバスの活用が高く、主体的に演習に臨んだことが伺える。 一方、受講動機について、9全員が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のは1.1%であった。関心ある学生が少ない状況での授業開始であることを念頭に、授業の導入が必要なことを知らされた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、レポート・ケアプラン・看護過程等の提出物が50%、期末テスト50%で実施した。最終的な成績は、平均点69.0点（標準偏差7.63点）であり、再試験対象は 名であった。成績の内訳は、秀 1名、優 8名、良 40名、可 51名、不可 1名（再試験未受験）であった。 講義前半はレポート、後半でケアプラン・看護過程の提出を要求したため、自由記載では「最後まで出しすぎ」の意見もあった。3年前期はこれまでに比べて課題の量は多いことは承知しており、教員間で随時、情報共有して締切日を調整しているが、学生は提出日を認識していても、完成させるのにどのくらいの時間がかかるか、予想が立てにくかったのだろう。最後の看護過程は、未完成のままの提出が1名、様式は揃っていても不十分な内容のままの提出がかなりあった。実習では患者様に看護を提供する場合、事前の準備が必要である。後期の実習に向ってこの関門をクリアしてほしい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP2：思考・判断、DP3：意欲・関心、DP4：態度、を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。グループワークを取り入れながら、各自がケアプラン・看護過程の力がつくように、課題の提出は個人でするようにした。達成度の自己評価で「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が最も高く、それぞれのグループ員が協力して課題を作成してくれたことが伺える。 一方、地域包括ケアの演習は、グループワークの課題をグループごとの提出だった。法律・制度が苦手なうえ、図式化することが極端に苦手な学生が存在する。テストの結果も、出来る人、出来ない人、に2分されていた。グループワークの進め方に工夫が必要であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	演習の初め、介護をめぐる社会問題を考えてもらう手法としてディベートを取り入れた。そのためか、インターネット検索した学生は7割以上、図書館の図書や雑誌を利用した学生が8割、学術データベースを使った学生が6割以上おり、インターネットを検索して活用した学生が7割以上あった。専門書や最新のデータを自分たちで調べてくれたため、ディベートは有効な方法であることがわかった。 その後の演習では、複数回で予習・復習して臨んでくれた学生が7割近くあった。一方、「課題以外に学習に取り組んだか」では、していないが7割以上あった。学生の意見では「課題が多い」との意見を複数もらった。また、「課題を直前に出された」と言う意見もあった。シラバスで授業進行は提示し、さらに、課題の量は調整した上で5週間前に課題の内容と締切りをプリントで提示していた。学生の学習時間の配分についても、説明する必要があることがわかった。 「解説が足りない」というコメントがあったが、各自が考える時間を確保するため講義中は全体への解説の時間最小限にして、記載例を配布し、教員と助教4人でラウンドしながら個々の質問に応じる体制をとっていた。教員の担当グループも明示していたが、質問の機会を逃す学生もいたのかもしれない。学生個人個人に目を配っていききたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ディベートでは、1年次に行ったディベートが活かされ、文献やホームページでデータを集め、積極的に参加してくれた。グループで介護の社会問題をとらえたことは、在宅看護学の理解につながった。しかし、地域包括ケアについては、在宅看護学での知識を使い演習事例で考える内容であったが、グループワークのみで展開したため、理解できた学生とできなかった学生に二分された。福祉制度やサポートシステムの活用は在宅看護特有の視点であるため、全員が理解できるような手法を考えたい。このことによって、DP4-2)の達成率をあげていきたい。 主体的な受講動機が低い科目であることを自覚し、科目のねらいを具体的に示していきたい。授業外での課題については、今後も他の科目の情報を得ながら考慮するが、なくすことは難しいため、学生の理解を得たい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護マネジメント論	4	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生の就職試験前であることを念頭に、臨床、とくに病院管理の内容に焦点を絞って解説した。例えば、労務規定、看護師としてのキャリア開発の実例、キャリアアンカーの考え方、病院機能の違い、看護提供体制の違い、診療報酬の仕組み、二次医療圏を中心とした地域医療計画の現状、などである。 とくに、就職後の仕事のマネジメント上で大切な視点、行動については、いくつかの単元の中で実例を挙げて解説した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生が少なかったが、短時間の演習を織り交ぜながら、少人数で効果的に教授できた。成績は9名全員が「優」の範囲であった。定期試験だけでみれば平均得点は83点であり、時折、事前課題を出し、9名が熱心に課題を実施していたのが、修得率の高さにつながったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	4年生の前期には、まだ数人に対して臨地実習が行われており、看護総合実習（2週間）も実施されるため、時折、授業を欠席する学生もいる。その単元のレジュメを事前に配布し、短くても事後の個別指導を行うことで、その単元の理解を促した。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	4年生の中には、前期の間に1か月以上の臨床実習が組まれている学生もいるため、1単位の本科目を受講すると、欠席日数が増えるので、受講したくても単位が取得できないという不満も聞く。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究の基礎	3	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①4年生になって、全員が看護研究演習を目指すわけではなくなっていることに加え、科目名から何を学ぶかをイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。今回の受講動機をみると「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」10.3%、「関心のある内容である」4.6%という内訳であった。授業の中で関心を引き付けることは、昨年に引き続き大きな課題である。 ②3 年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。 ③一人一人に研究論文を検索し読ませた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。 ④研究的思考が病棟で働く看護師になぜ必要なのか理解を促すビデオの視聴を試みた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.8 (±6.02) 点であり、再試対象はいなかった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは23名であり、半数以上がこのレベルに達すると思われる。成績の内訳は、Sが0%、Aが23.2%、Bが55.6%、Cが21.2%、Dはいなかった。 目標別に見ると、知識理解に関しては70%、思考判断に関しては70%、関心・意欲に関しては70%、態度に関しては80%という結果であった。研究というものに対する関心があまりないところからの出発であるが、患者のために看護研究は必要であることが理解できると、自分たちの興味・関心のある中から研究課題を見つけようとしていた。臨地実習からは1年以上離れ、課題を見つけるのも容易ではないため、課題発見へ次年度にむけて検討したい。 学生による授業評価において、もっともよかったことは、図書館の利用が87%以上であったことである。文献検索をして文献を読み、文献カードを作成する。この一連の作業は、知識確認、思考判断とつながっていく。文献をもっと読むことでこの能力は高められ、研究計画書もより良いものに仕上がる。しかし、学生は一つの論文を読むことで精いっぱいのものであった。もっと文献を読むことができるようにし、研究に関心を持つ学生が増えるように内容を検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。しかしながら領域実習に出ていないので、看護における研究の意味や必要性がわからないままという学生が多い。授業の中で、看護における研究の必要性を理解していく中で、研究の面白さに気づく学生も出てくる。研究をやってみたいという学生も少なからず出てくる。領域の実習に出る前の時期に研究的思考を身につけることができるため、内容的には妥当であると考え。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断、関心・意欲、態度に関しておおむね達成された。グループで研究課題を考え、教員の指導のもと、一つの研究計画書を作成することができた。初めての取り組みであるため、グループ活動は効果的であったと思われるため。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.3とやや低かった。15コマの中に講義と演習を入れているので、講義内容が盛り沢山になってしまったと思われる。知識を定着させるような課題の出し方の工夫が必要だったと考える。次年度は、限られた時間の中で教授内容を検討し、わかりやすい説明を心掛けたい。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均は3.8と高かった。グループでの意見交換は十分にされたのではないと思われる。次年度は、思考判断がより反映される様な研究計画書の内容の充実を図りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護職にとって、研究的思考を持つことは患者のためにより良い看護を行うために必要なことである。しかし、3年生前期の学生は、後期からの領域実習のことで頭がいっぱいである。本科目の重要性を学生に認識してもらい、担当教員は適切な指導を行わなくてはいけない。実際に研究計画の指導に当たる教員は、興味がわくように指導をしていただく予定である。 研究が初めてである学生がほとんどなので、研究アレルギーにならないように支援したい。研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援したが、もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるなど、学生が研究に興味を持てるように授業改善をする必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	桑野 嘉津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア活動論	1	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①ボランティアについて学ぶ意義を理解できないまま受講している学生が多く、学ぶことへの動機づけが大きな課題である。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が53.1%であるのに対し「単位数を確保する」ための受講が78.1%であったことはこのことを示唆するものであった。できるだけ身近な事例を挙げて、関心を引きつけるようにした。 ②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。ほとんどの学生がこれまでに学校などでボランティア体験をしているが、社会情勢への関心については70%を超える学生は新聞をほとんど読んでおらず関心が薄かったため、社会の情勢や地域の問題について関心を持つためにボランティアに関する記事を探し感想を書くことを課題とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.0点(±4.3点)であり、9割が理想的レベル(80点以上)に達した。身近なボランティア活動について調べ資料を作りプレゼンテーションをするという課題、ボランティアに関する記事を探し感想を書いて提出するという課題、各自でボランティアを实践し報告書を提出する課題については全員が達成、レポートの内容についても全員が標準レベルに達した。目標別に見ると知識理解に関しては学んだことを口頭発表やレポート記述で自分なりにまとめることが出来ていた。意欲関心については受講動機の「関心のある内容である」が53.1%だったにもかかわらず、それぞれの課題について全員達成しただけではなく要求された量以上の課題を提出するなど意欲的に取り組んだ学生が多かったことは評価できるのではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目であるが授業準備の欄で指摘したように「単位数を確保する」ために受講した学生も多く、動機付けに苦慮する面があるが、課題を工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 それぞれの課題について高い割合で達成したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	全8回の授業の中で学生自身がじっくりと考え話し合う時間や質問の時間を確保することが難しいため、毎回のレポートを次回の授業で活用するよう工夫した。 ボランティア活動について調べ資料を作る課題や記事の感想を書く課題のために、授業中に新聞記事の資料を配布したり全員でインターネットを閲覧したりして、図書館での新聞閲覧やインターネット等の利用を促した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ボランティアの学びは技術向上や資格習得など学生の成長に直結するものではないので動機付けに苦慮する面があるが、日頃の学生生活の課題と結びつけることで身近な問題としてとらえ、看護師として積極的に社会に貢献しようという意欲に繋がるように工夫していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健師課程必修科目である。受講動機をみると「必修科目である」64.7%、「資格取得に必要なである」82.4%と高いが、一方「関心のある内容である」では17.6%と低い。保健師課程必修科目であることが主な受講動機であり、教科目への関心が低い状況が明らかになっており、フィールドワークとアクティブラーニング教室を活用して参加型授業を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは15名と、ほぼ達成された。 目標別に見ると、知識理解及び思考判断は78.6%、課題発表を通しての態度100.0%であった。思考判断では、基本的な知識を用いて、事例の情報収集、アセスメントを行い、健康課題を解決するためにどう判断するかを問うものであり、前年度より改善した。情意領域の面では、授業時間外の学習時間の確保として、図書館での文献や雑誌(55.6%)、学術データベース(16.7%)及びネット検索(77.8%)の活用がなされており、課題発表においても学生らの意欲、態度は積極的であった。課題以外の学修を行った者は22.2%に留まり、その理由の多くは、他教科目の課題が多く時間に余裕がなかったことがあげられていた。次年度は、興味関心が広がるような課題学習テーマを検討することが課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 受講動機で最も多い「必修科目」「資格取得に必要な科目」にもある通り、本科目は「専門応用科目」のなかでも、「公衆衛生看護関連科目」に位置づけられており、保健師課程の必修である。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 保健師国家試験科目であり、学生の授業に臨む姿勢は真摯であり、自己評価が高い項目は、「職業選択の参考になった」、専門分野に対して「的確に判断する力」「学びを深めたいという意欲」であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。学生自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」で平均値4.1、中央値4.0と最も高く、前年度課題としていた思考判断を強化するための方策によって改善がはかられたと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」平均値4.2、中央値4.0、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会がつくられていた」平均4.1、中央値4.0の順に高く、いずれも前年度より改善が見られた。自由記載でも「グループワークは話し合いがしやすかった」「発表、ディスカッションの場の利用が良かった」「フィールドワークは楽しかった」との記述があり、アクティブラーニングやフィールドワークを取り入れたことで、学生の主体的参加が促進されたと考えられる。前年度のリフレクションで課題としていた事例検討後の補足説明の強化を行ったが、「説明はわかりやすかった」では平均3.8と前年度より0.7ポイントと上昇した。事例を検討し発表後に、教員から説明を補足し確認する等の時間を確保したことで改善がはかられたと考えられる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目のなかでも、保健師課程に位置づけられる本科目の特性から、看護師課程の基礎的知識を土台に、公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目である。前年度のリフレクションで課題としていた点が改善され、アクティブラーニング教室の活用を行ったことで、学習環境の重要性を再確認した。しかし、課外学習課題については、グループ単位で課題を提示したため、授業時間外にグループが集まる時間を確保することが困難であったようである。課外学習は個人学習とし、授業中にグループワークを行えるよう方法を検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術演習	4	前期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」に必要な看護技術を修得する演習科目である。受講動機をみると「必修科目である」76.5%、「資格取得に必要である」47.1%であった。「関心のある内容である」では、前年度の21%から今年度は0%と当該科目への関心の低さが明らかである。受講動機の弱さをふまえて、関心・意欲を引き出すようにした。関連科目である「地区活動論演習」との関連性を意識できるよう、また、実習で実施する公衆衛生看護技術の具体的な内容やテーマの選択にあたっては、実習施設の指導保健師との調整を行い、現場に即した演習課題を準備するよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)目標は達成された。 目標別に見ると、思考判断の達成は80%、関心意欲では97%、技能表現では82%、態度では100%であった。思考判断では、家庭訪問や健康教育の事例に対し、健康課題解決のために、科学的根拠に基づいて公衆衛生看護技術をどのように適用するかを判断する力を問うものである。また、技能表現では、対象者とコミュニケーションをとり関係を形成しながら看護後術を提供できる力を備えることである。学生の達成度評価からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を身につけることができた」でいずれも平均値3.8で最も高い評価であった。科目のねらいと学生の達成度自己評価は一致していた。また、図書館の利用状況に関して、全員が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用しており、前年度と比較して30ポイント増加した。そのことが、思考判断の達成状況の改善につながったと考えられる。 また、受講動機で、「関心のある内容である」が0%(前年度21%)であったが、学習到達度の自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値3.7と前年度とほぼ変わらず。開講時には低かった科目への関心であるが、授業の進行とともに学生にとって必要な技術であることの認識が高まり、受講後には前年度と同様の評価に至ったと推察される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。2年生後期の「公衆衛生看護技術論」修得した知識をベースに、事例について家庭訪問及び健康教育を展開する演習科目である。開講時期が4年生前期であり、看護師課程の各領域看護学実習を終了した時期である。そのため、個人・家族から、集団・地域と対象理解を広げて看護を展開するには適切な時期であり、また内容的にも妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 前年度は、と感じており、両者に若干のズレが生じている可能性がある。授業の質の評価では「評価基準の明確化」では、18名中17名は肯定的評価であったものの、より共通認識をもち達成状況を確認することができるよう、次年度は検討が必要であるが、この点は方法的妥当性の問題である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」平均値3.8,「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会がつくられていた」平均値3.8で高かった。授業では、学生が準備してきた課題学習内容をもとに、担当教員とのディスカッションし、追加修正を行う時間とする授業形態で行った。従って、全員が「授業参加のために30分以上の準備」を毎回行っており、学生の授業以外の課題学習量は必然的に多くなっている。しかし、この時期は、保健師課程学生の演習科目以外は殆ど授業がないため、実習の準備性を高めるために集中講義で運用した。 授業課題以外に具体的に取組んだ学習に関する自由記載では「根拠となるものを様々な文献を用いて学習した」や「健康教育で用いる身体のメカニズムについて自己学習した」「健康教育では発表以外でも、自分たちに知識を備えた」と記述されていた。学生は実習に向けて自己の課題を意識して何が必要かを考えながら授業を履修していた様子が伺えた。図書館の利用状況に関して、全員が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用しており、前年度よりも改善していた。しかし、「説明はわかりやすかった」では平均値3.2と最も低く、自由記載では「質問に行った際、もう少し具体的なアドバイスがあると分りやすかった」との記述があり、学生と教員とのやりとりの後に、理解度やうけとめ方を確認することが必要であろうと考えられ、次年度の課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生は、全てのDPを達成した。授業外の課題学習でも図書館を有効に活用し、科学的根拠に基づいて看護を提供しようと計画し、家庭訪問、健康教育の技術の習得に向けて熱心であった。事前に学生が準備してきた課題をもとに、担当教員とのディスカッションし、追加修正を行う時間とするように進化したため、次の授業までの学生の準備状況が演習内容及び影響が大きかった。そのため、学生は授業課題以外に具体的に取組んだ学習に関する自由記載からは、科学的根拠に基づいて看護を実践しようとすることや、看護を行うために必要な知識を備えようと努力していた。また全員が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用しており、利用率は前年度よりも改善していた。 しかし、「教員の説明はわかりやすかった」では前年度に引き続き、課題を残した。ただ、演習科目では教員がわかりやすく説明することよりも、学生の疑問を引き出すような発問を投げかけて自分たちで方策を導き出せるよう関わることも必要であると考えている。しかし、その意図が学生に十分伝わっていない可能性がある。次年度は、わかりやすい説明を心がけることと合わせて、学生と教員間で、互いの役割を共通理解できるような工夫も検討したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」に必要な地域アセスメント技術を修得する演習科目であるため、実際の実習地域の人口統計・健康指標データ等を用いて、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう情報ソースを確認し準備した。受講動機をみると「必修科目である」82.4%に対して、「資格取得に必要である」52.9%であるが、「関心のある内容である」では0%と学生の準備状況は低かった。初回に実習施設である自治体の概要についてプレゼンテーションを行い、地域への関心を高める動機づけを行った後に、保健統計等の情報収集分析に進むよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは8名であった。 目標別に見ると、思考判断に関する問題は75.3%であった。思考判断では、地域アセスメント課題について、健康指標の知識を十分に応用して、実際のデータを読み取るか、また、経年的な見方や他との比較の仕方など、応用した思考判断を問うものであり、基本的な知識の応用が十分ではなかったことを示している。 学生による授業評価においては、昨年度との比較では、思考判断の観点で最も低かった「的確に判断する力を得ることができた」平均値3.3で0.5ポイントアップ、「自分なりの目標を達成できた」平均値3.3で0.6ポイントアップした。また、高かった項目では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」平均値3.9、次いで「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」平均値3.8、中央値はいずれも4.0であり、科目の特性である地域アセスメントに関して、学生は視点や考え方の視点を広がり認識していることが明らかになった。ただ、「自分なりの目標を達成できた」3.3、「自分が学ぼうとしている思う専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」平均値3.3と最も低く、学生の達成感や意欲といった情意領域に課題を残した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のみ受講である。実習に向けて動機づけは高いと思われるが、毎回、課題学修内容をもとに演習を進めるため、授業外の学習量も多く、また実習に向けた演習科目が2科目同時に進行することもあり、モチベーションの維持に苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低く、学生自身も（2）に述べたように、思考判断の力は獲得できたと感じている学生は少なかった。授業の質の評価では「評価基準の明確化」では、18名中16名は肯定的評価で、前年度と同様であった。本科目は集中講義のため、学修期間に応じた課題達成レベルの再検討が必要である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、高かったものは「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.2（前年度より0.2ポイントアップ）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」平均点4.0（前年度より0.2ポイントアップ）、参加型演習による授業の進め方は、学生も、その効果を認識することができていると考えられた。また、地域診断の主要な情報ソースはインターネット上に公開されているデータであるため、図書館及び情報室の活用率が高く課題学習を行っていることが把握できた。学習量では、毎回事前準備を必要とする課題を提示していたため、全回を通して前後の学習時間が必要となり、全員が「1回30分以上の準備」を行っていた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目の主要科目にあたる本科目の位置づけから、思考判断では課題を残した。集中講義の開講期間は、実習開始時期の変更により、前年度より約半分の期間で4～6月中旬迄に縮小されたもの、学生の到達状況は前年度とは大きな差は見られなかった。また、図書館活用も全員が行っていた。しかし、学生の受けとめとして「自分なりの目標を達成した」や「学びを深めたいと意欲を持つことができた」の項目で他項目と比較して低い傾向にあった。「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネットの活用」結果からは、かなりの学習量を費やしており、学生にとっては学習量の多さに対し、達成感や意欲といった部分では課題に追われていた状況が伺えた。特に短期間での集中講義であったことが要因の一つであると考えられる。限られた集中講義期間で、実習までに必要な地域診断の内容を思考判断できるために、時間割運用や情報源の提示の方法等、授業の進め方の工夫が課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職概論は教員としての資質、職務及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。 ②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、授業への参加度を高める工夫をしてみた。 ③学生には別にノートを作らせ、自分のポートフォリオとして活用できるよう指示し、毎回の課題や持ち帰り課題などを活用することでノートを充実させるように仕組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.3であり、この科目の全体の平均値81.9を微妙に下まわった。まあ、平均と同じくらいと見ていいだろう。再試験対象はいなかった。中央値は85.0であり、80点以上が期待値とすれば、期待をかなり上まわる成績であったと言える。しかし、80点未満の学生は20名中5名おり、下位20%に課題を残している。 学生の到達度自己評価は3.5～4.0であり、高い自己評価をしている。教育の質評価は3.5～3.8であった。到達度評価のうち「(8)コミュニケーション力や表現力」において3.5、(7)技術の修得において3.6とが低い方の数値であったが、まだ2年生ということでまだディスカッションには馴れていなかったのかもしれない。技術的なことより理論に中心があったので、3.6は妥当なところか。また講義中にかなり時間を割いて職業倫理そのものを主題にやったので4.0になったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の科目であるから資格取得のため、必修だからという受講動機であり、講義の内容にもとより関心を持っているわけではない。しかし、免許状取得に必要なものであるから位置づけは妥当であろう。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教職課程の科目であり、2年生ということもあってまだ免許の実感は少ないのだろうと思うが、意欲を喚起する工夫は行いたい。具体的にはシラバスの見直し、配付資料の見直し、となろうか。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

コミュニケーション力のあたりに課題は残っているが、グループワークを増やして克服していきたい。授業間質について全体に1～3名の①②がいる。おそらくはシラバスの見直しなどで改善をはかっていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	近藤 憲一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 受講動機として、100%の受講者が「養護教諭免許の取得のため」と回答しているが、重複回答として「関心のある内容である」と回答した受講者は14.3%という状況であることを踏まえ、他学科との関係もあるが、できるだけ養護教諭としての具体的指導場面や指導の実際等を想定した事例等の準備を行うなど、受講への興味関心を醸成しようと工夫した。 ② 昨年度と同様、授業の最初に小、中、高等学校時代の特別活動の思い出を記述する時間を確保するとともに、互いの思い出を交流し合うことを通じて、特別活動への様々な思いに触れさせ、特別活動への興味関心を深めるようにして受講動機の強化を図った。 ③ 10回の講義後に、これまでの講義から誘発された問題意識の中からテーマ設定したレポートを提出するよう課題を与えて、これまでの学習状況を振り返るようにした。また、その際、レポートの記述要領の参考となるレポート事例資料を配布し、課題追及への興味関心とレポートの質的向上を醸成した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は38%といった状況であった。受講者による到達度自己評価の知識・理解の観点では、学科別集計と同程度の値である。また、思考判断、関心・意欲、技能・表現、職業選択の観点ではいずれも学科別集計の値より高い状況であった。しかし、特に、授業準備の「テスト、レポート、提出物」などの評価基準は明らかであった」の観点は、学科別集計より低い値であることから、今後、評価規準の示し方をはじめ、さらにその在り方について検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は養護教諭免許の取得には必修の内容である。そのため、免許取得を前提として受講しているものとして受講生の希望にさらに応えるよう工夫していくこととし、受講生も一定の成績を収めていることから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業準備の「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の観点 が3.4（学科別集計3.8）と低い値であることから、さらにその在り方について検討したい。また、図書館等の利用の観点の（1）、（2）、（3）は、いずれも学科別集計の1.5倍から2倍という高い値だったが、今後とも資料収集への指導に取り組んでいきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	特別活動の特質、目標、内容等についての基礎的知識の形成については概ね達成することができたが、指導案づくりや具体的な指導のあり方などについてより具体的かつ実際的に取り組むために、予習課題の提示、グループ活動の取り組み、授業時間の配分、他学科の受講生との指導事例の内容調整など、工夫すべき点も見受けられ、できるだけ改善工夫を図っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育方法論は担当する教職課程の最後の講義（今年着任なので最初で最後）になるので、教員としての実践力の基礎及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。 ②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、参加度を高める工夫をしてみた。 ③途中、中間テストを入れ、かつ問題を協力して考えるという参加型（アクティブ・ラーニング）の手法を取り入れてみた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は88.1であり、この科目の全体の平均値87.6よりわずかに上回っている。しかし、母数が少ないので誤差の範囲であろう。再試験対象はいなかった。多くの学生は期待した水準に達したと言うことはできる。 学生の到達度自己評価は3.3～3.5であり、全体的な平均値と変わらない。授業の質評価は（3）を除き3.5～3.6という評価となった。「（3）説明が理解しやすい」が3.0であり、課題を残している。 学習量もあまり多くはなく、不安材料は多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。看護学科の過密なカリキュラムの中での教職課程の履修であるから、学生にとっては大変だが、カリキュラム上の位置づけは妥当であろう。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
 示してください。
 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
 ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
 ターネット利用」学生の意見など

「（3）説明が理解しやすい」が3.0であった。教職課程であるため内容が専門の学科とは少しちがっている
 ので難解に感じたと思われる。参加型の学習を増やしたり、課題の設定などに工夫を加えたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

知識の修得についてはおおむね達成できたが、まだ説明の理解しやすさに課題を残しており、授業中の作業などに工夫を加えてみたい。また、採用
 試験の動向などからも教育内容を見直していく必要がある。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は73.2点、合格率は94%であった。平均点を70点程度と予想しており、おおよそその通りであった。秀は1名、優は6名であり(17人中)であった。良が可の2倍いることから合格者が一定の水準に達していると考えられる。指定された枠組みを守りながら最低限のアウトプットはできており、知識理解については満足できる。ただし、授業のねらいと教材や授業展開の工夫など、思考判断については改善の余地がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。ただ、結果からみるとそれができた学生と、漠然と指導案を読んでいるだけの学生にはっきり分かれていたように思う。宿題だけでなく、授業中の作業として自分自身の指導案作りをさせるなど、演習的なアプローチが必要だと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	秀の学生を増やすことが今後の課題である。達成状況からすると、基本的な部分は達成できたが、自分なりの工夫という部分で弱いと感じている。学生自身の興味関心という点で問題があるだけでなく、具体的にどのような形で授業を構想すればよいのかという点を理解してもらえるような工夫を行いたい。
------------------------------	---